

# 広島商船高専卓球部 30 年間の取組みと成果

## －夢は叶う－

瀧口 三千弘\*

## Our Table Tennis Club's Activities and Results of the Last Thirty Years

### －Dreams Come True－

Michihiro TAKIGUCHI

About thirty years have passed since the author started coaching the table tennis club of our college. At first it was a “weak” club only to participate in the game, but we have made a great effort to achieve our goal with a big dream. As a result, we achieved the victory four times in the team competition at the national tournament of KOSEN.

This paper deals with our table tennis club's activities and its results for the last thirty years. One factor of our table tennis club's growth was that our club joined Kotairen (High School Athletic Federation) in 1994. There is no doubt that Kotairen has greatly stimulated our club activities. Other major factors are encounters and support with many table tennis officials such as students, parents, leaders, regional supporters and so on. The efforts of last thirty years show the author that students have a big power to make their dreams come true.

KEYWORDS : table tennis club, activities and results, Kotairen (High School Athletic Federation), KOSEN tournament, Nichigakuren (Japan Students Table Tennis Federation), dreams come true

### 1. まえがき

著者が本校卓球部の顧問を引き受けて、約30年（1983・84年度、1990年度から今日に至る）が過ぎようとしている。著者は本校OBであり、中学・本校と約8年間卓球部に所属していた。選手時代は練習も人並みにやっていたつもりではあったが（実はそう思っただけだったことは、後々よくわかった）、チームとしても個人としても試合に出ても勝てないという悔しさしか記憶にない。著者が本校に赴任した当初も、本校卓球部の状況は著者の学生時代とほとんど変わっていなかった。そんな本校卓球部が、

多くの卓球関係者との出会い、さらには先にも報告したように<sup>1), 2)</sup>、1994年度の高体連の加盟がきっかけとなり、現在では少しは試合に勝つことのできるチームに成長した。全国高専大会での4度の団体優勝、高体連での中国高校卓球選手権大会出場（団体：男子10回、女子8回）、インターハイ出場（個人）、インカレ出場（男子団体、個人）、全日本選手権出場（個人）等々、選手はよく努力し頑張った。

本報告は、著者の知る本校卓球部の約30年間の取組み内容とその成果について、著者の思いも含めて整理した。夢を持ち、目標を設定して努力すれば「夢は叶う」ということ、そして何より学生達がそれぞれ

\* 商船学科

れの夢を実現させる大きな力を持っていること、我々は精一杯それをサポートすればいいということ、を、本報告を通して述べたい。

## 2. 本校卓球部の推移・変遷と現状

先の報告<sup>1)</sup>に追加する形で、本校卓球部の推移・変遷と現状について簡単に紹介する。

### (1) 部員数

図1に部員数の推移を、図2に新入部員数の推移を示す。なお、図1における部員数は1～5年生の全てを含んでおり、この中で1～3年生が高体連で、4・5年生は日学連で活動している。高専大会及び一般の大会は全学年が活動の場としている。図1から、最初の頃に比べると倍近い部員が在籍していることがわかる。ただし、新入部員数の方を見ると、男子は毎年一定数の入部があるが、女子についてはここ数年入部者数が激減していることがわかる。この夏の選抜地区予選から団体出場(最低4名必要)ができない状況になっている。女子部をどのように再び活性化するかは今後の課題である。

### (2) 練習状況

表1に一週間の練習状況を示す。木曜日を休日としている。ただし、練習参加は強制的なものではなく全て自分の意志によって行っている。なお、部員に寮生が多いこともあり、夜の練習も自主的に行っている。ただ、何かあった時すぐ対応できるように、原則顧問の教員の誰かが体育館または学内にいる。

長期休暇中(夏休み、冬休み、春休み)の練習は、正月休みを除いて原則毎日行っている。ただし、平日の練習同様、練習参加は強制的なものではなく全て自分の意志によるものである。なお、普段の練習時間が少ない分(他の強豪校に比べて)長期休暇中の練習は非常に重要である。ここで本気で取り組んだ上級生は、もう一つレベルの高い選手に育っており、こうした選手の育成ができるのも、この環境を継続してきた成果の一つと考えている。

### (3) 大会参加状況

表2に2016年度の年間スケジュール表を示す。試合が同じ日に重なっているものもあり、全ての大会に出る(出ることができる)わけではないが、高体連関係の大会、高専関係の大会、日学連関係の大会、一般の大会と、各学年・各レベル・各目標に応じて試合を選びながら試合に参加できるように配慮している。中学生の指導等も時々行っている。

図3にこれまでの大会参加数(練習試合含む)の

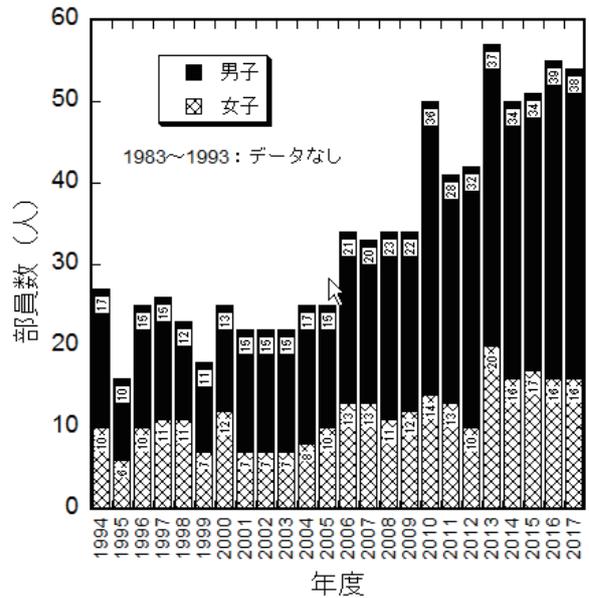


図1 部員数の推移

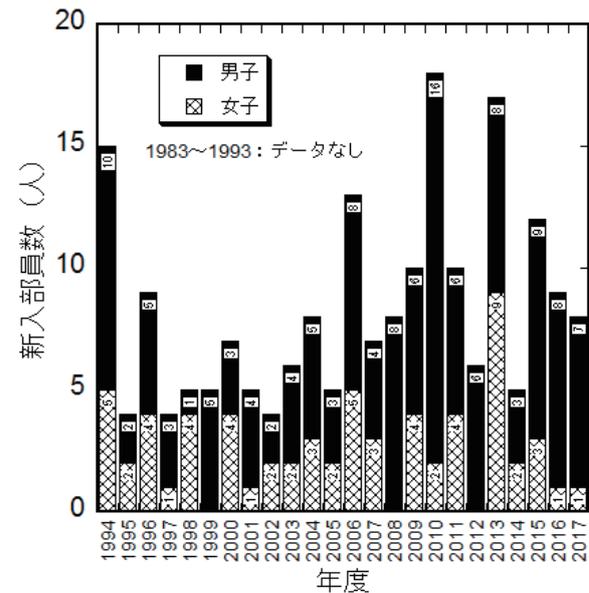


図2 新入部員数の推移

表1 一週間の練習状況

曜日	午前	午後	放課後	夜
月			基礎練習	自由練習
火			基礎練習	自由練習
水			基礎練習	自由練習
木				
金			基礎練習	自由練習
土	基礎練習	練習試合・課題練習		
日	基礎練習	練習試合・課題練習		

推移を示す。先の報告<sup>2)</sup>のように、この図から本校卓球部の活動状況には、これまで二度の大きな転機

表2 2016年度の年間スケジュール表

No.	月 日	大会名	種目	会場	分類			引率
					高	専	大	
1	2(土)-3(日)	広島オープン卓球選手権大会	団体戦, W, S	広島県立総合体育館			○	0
2	16(土)	広島県高校卓球選手権大会地区予選	W, S	三原リージョンプラザ体育館	○			2
3	17(日)	呉地区春季リーグ戦(一般の部)	団体戦	広オークアリーナ			○	2
4	23(土)	広島県総合体育大会地区予選	団体戦	竹原バンブー運動公園体育館	○			2
5	29(金祝)	可部スポ少合宿	合宿	吉田運動公園体育館			○	2
6	1(日)	中国卓球選手権大会広島県予選	W, S	三原リージョンプラザ体育館			○	2
7	3(火祝)	呉市民大会(一般の部)	団体戦	広オークアリーナ			○	2
8	7(土)-8(日)	広島県高校卓球選手権大会	W, S	安佐北区スポーツセンター	○			2
9	26(木)-29(日)	中国学生卓球選手権春季大会	団体戦, S, W	山口県・維新百年記念公園		○	○	0
10	4(土)-5(日)	広島県総合体育大会	団体戦	三次カルチャーセンター	○			2
11	11(土)-12(日)	中国卓球選手権大会(鳥取大会)	W, S	未定			○	2
12	12(日)	東広島市卓球協会会長杯卓球大会	W, S	東広島運動公園体育館			○	2
13	17(金)-19(日)	中国高校卓球選手権大会	団体戦, W, S	鳥取・コカ・コーラウエストパーク	○			2
14	18(土)	弓削戦	団体戦	弓削商船高専体育館		○		2
15	19(日)	呉市長杯争奪卓球大会	団体戦, S	広オークアリーナ			○	2
16	19(日)	前期全尾道市オープン卓球大会	W, S	びんご運動公園体育館			○	2
17	1(金)-3(日)	中国地区高等専門学校体育大会	団体戦, W, S	びんご運動公園体育館		○		4
18	1次9(土)/2次16(土)	1次:広島県中学高校卓球大会県予選/2次:国民体育大会予選	S	1次:びんご運動公園体育館/2次:御調体育センター	○			2
19	31(日)	呉オープンダブルス大会	W	呉市体育館			○	2
20	31(日)-8/5(金)	全国高校卓球選手権大会(インターハイ)	団体戦, W, S	岡山県総社市 きびじアリーナ	○			2
21	6(土)	尾三地区1年生大会	S	竹原バンブー運動公園体育館	○			2
22	19(金)-21(日)	全国高等専門学校体育大会	団体戦, W, S	豊田市総合体育館		○		2
23	20(土)	全国高校選抜卓球大会地区予選	団体戦	尾道長者原スポーツセンター	○			2
24	21(日)	三原市民硬式卓球大会	団体戦(3S), S	三原リージョンプラザ体育館			○	2
25	27(土)	広島県知事杯争奪卓球大会(一般の部)	W, S	広島県立総合体育館剣道場			○	2
26	1(木)-4(日)	中国学生卓球選手権秋季大会	団体戦, S, W	岡山県・ジップアリーナ岡山		○		0
27	1次3(土)/2次4(日)	全日本選手権ジュニア広島県予選(1次/2次)	S	1次:安佐北区SC/2次:南区SC	○			2
28	11(日)	Nittaku杯東広島オープン卓球大会	W, S	東広島運動公園体育館			○	2
29	18(日)	全日本卓球選手権大会(一般の部)県予選	W, S	福山市体育館			○	2
30	18(日)	バタフライ・ダブルsteamカップ三原大会	団体戦(3MW)	三原リージョンプラザ体育館			○	2
31	19(月祝)	呉地区総合団体卓球大会	団体戦	広オークアリーナ			○	2
32	19(祝月)	後期全尾道市オープン卓球大会	W, S	びんご運動公園体育館			○	2
33	?	中国学生卓球連盟会長杯争奪卓球大会	団体戦, W, S	東広島運動公園			○	0
34	16(日)	呉地区秋季リーグ戦(一般の部)	団体戦	広オークアリーナ			○	2
35	22(土)	広島県高校新人卓球大会地区予選	団体戦	竹原バンブー運動公園体育館	○			2
36	29(日)	広島県高校新人卓球選手権大会地区予選	W, S	三原リージョンプラザ体育館	○			2
37	19(土)-20(日)	広島県高校新人卓球選手権大会	団体戦	呉市体育館	○			2
38	26(土)	大阪オープン県予選	W, S	県立体育館剣道場			○	2
39	27(日)	呉地区卓球選手権大会	MW, W, S	広オークアリーナ			○	2
40	4(日)	竹原市選手権大会	W, S	竹原バンブー運動公園体育館			○	2
41	9(金)-11(日)	オール西日本大学卓球選手権大会	S	島根県・隠岐の島町総合体育館		○		0
42	17(土)	全国高校選抜卓球大会県予選	団体戦	福山市体育館	○			2
43	17(土)	東京オープン県予選	W, S	未定			○	2
44	18(日)	ミハラスポーツ杯争奪卓球大会	団体戦(3人)	三原リージョンプラザ体育館			○	2
45	24(土)-25(日)	中国新人学生卓球選手権大会	団体戦, S, W	島根県・松江市総合体育館		○	○	0
46	25(日)	東広島市長杯争奪卓球大会	団体戦	東広島運動公園体育館			○	2
47	9(月祝)	尾道市オープン卓球選手権大会	団体戦	びんご運動公園体育館			○	2
48	14(土)-15(日)	広島県高校新人卓球選手権大会	W, S	広オークアリーナ	○			2
49	16(月)-22(日)	全日本卓球選手権大会	W, S, MW, JrS	東京体育館			○	2
50	3(金)-5(日)	全国高校選抜卓球大会中国地区予選	団体戦	鳥取・コカ・コーラウエストパーク	○			2
51	11(土)-12(日)	西日本卓球選手権大会	W, S	柳井市体育館(バタフライアリーナ)			○	2
52	19(日)	リージョンプラザ杯争奪卓球大会	W, S	三原リージョンプラザ体育館			○	2
53	19(日)	江田島市近郊卓球大会	団体戦, S	江田島市SC			○	2
54	26(日)	広島県総合団体選手権大会	団体戦	広オークアリーナ			○	2
55	?	中国学生卓球連盟幹事長杯争奪卓球大会	S	東広島運動公園		○		0
56	5(日)	東広島ミックスダブルス卓球大会	MW	東広島運動公園体育館			○	2
57	19(日)	東広島二人三脚卓球大会	2S1W	東広島運動公園体育館			○	2
58	20(祝月)-21(火)	中・四国高等専門学校卓球大会	団体戦, S	高知南国スポーツセンター		○	○	2
59	25(土)-28(火)	全国高校選抜卓球大会	団体戦, S(2部)	大阪市中央体育館	○			2
60	29(水)-31(金)	TSP卓球大会	団体戦	東大阪アリーナ	○			2

注)・分類の意味(高:高体連関係の大会 専:高専関係の大会 大:日学連関係の大会 一:一般の大会)  
 ・一般の大会は、都合のつくものについて参加するものとする。  
 ・卓球部の活動を通して、己に厳しく、人に優しい人になれ。常に仲間への感謝の気持ちを忘れないこと。  
 ・上記以外にも大会案内が来るので、参加希望者は参加してもよい。

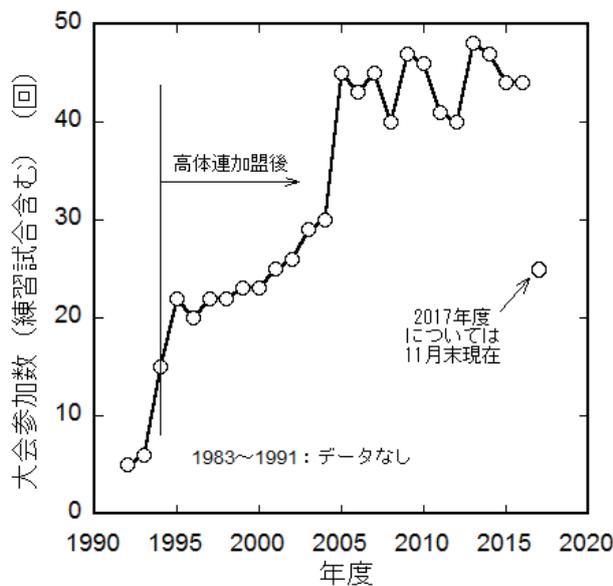


図3 大会参加数(練習試合含む)の推移

があることがわかる。最初の転機は当然のことながら高体連に加盟した1994年度であり、そこを境に試合数が急激に増えている。次の転機は2004年度から2005年度にかけてである。2005年度には年間試合数が43試合と初めて40試合を超えた。その後、昨年度まで12年間何とか年間40試合(練習試合含む)以上を消化することができた。このことが本校卓球部の成果に繋がった一つの要因であることは、間違いのないことである。

#### (4) 経費関係

図4に卓球部の経費の推移を示す。クラブ運営は、部費(学生一人月額1500円と、保護者後援会からの補助)と、学生会から出る予算が主たる財源である。なお、保護者後援会からの補助は、高体連では中国大会以上の大会に参加する場合、日学連・高専関係では全国大会に出場する場合、全日本選手権・東京オープン・大阪オープン・中国選手権等に出場する場合である。いずれも県予選を通過していることが条件である。

ここ数年間の経費の急増は、図1に示したような部員数の増加と、高体連の中国高校卓球選手権大会(団体戦・個人戦)や全国高校選抜卓球大会中国地区予選(団体戦)に男女で出場したこと(県で上位に入賞できたということ)、さらには中国地区高専大会を勝ち抜き全国高専大会に団体戦・個人戦に大勢で出場したことによるものである。後援会からの補助によるところが大きい。

なお、卓球部は2011年度に保護者を立ち上げていただいた。全国高専大会参加時は、その都度寄付を募っていただきバックアップしていただいている。

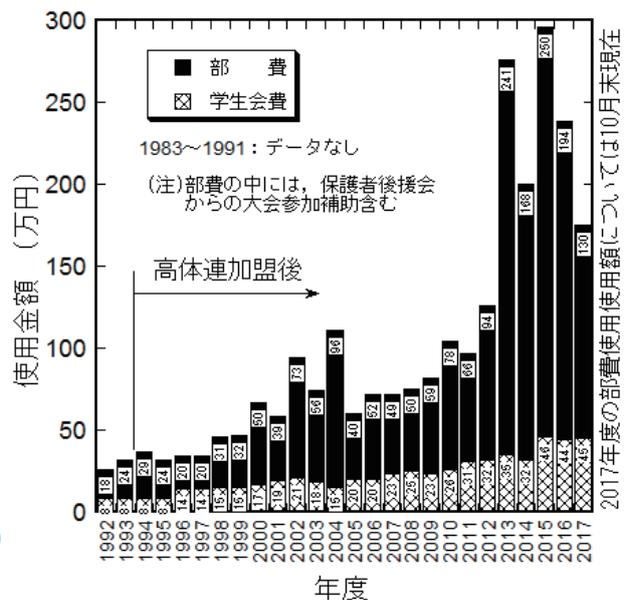


図4 経費の推移

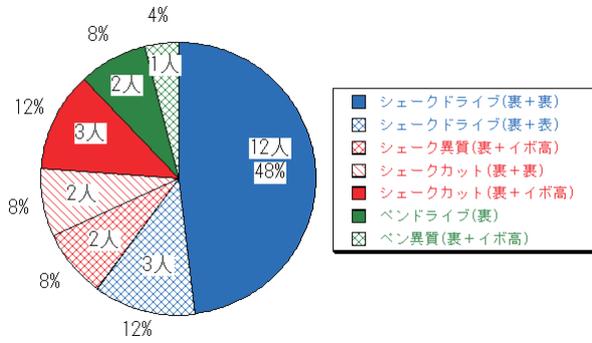
図4に計上されていない経費もたくさんある。いくつかを示しておく。

- ① ユニフォーム、短パン、ジャージ上下、ウィンドブレーカー、卓球シューズ等の購入費。
- ② ラケット、ラバー等の購入費。
- ③ 一般の試合の参加費(一律ではないが、約500円を選手から毎回支出してもらっている。不足分は部費にて支出)、フェリー代。
- ④ 日学連に関しては、選手登録費から大会参加費・交通費・宿泊費等、全て個人負担である。大会会場も中国地区内大学の持ち回りのため、かなり遠方にも出向く。
- ⑤ 中国地区高専大会や全国高専大会のような長期間の大会においては、全額が補助されない。遠方で開催される大会においては宿泊日数も多くなる。原則1泊分と旅費が補助されるが、それ以外は寄付や個人負担で補っている。
- ⑥ 保護者からの差し入れ。飲み物、米等。
- ⑦ 毎年高知で行われる中国・四国地区高専大会。2泊3日で全員が参加するため相当な金額になるが、全て個人負担である。
- ⑧ 大阪で行われるTSP卓球大会(団体戦)。年度末に3泊4日で行われる大会。男女高体連のレギュラー選手が参加している。新中学生の参加も認められており、4月の県総体地区予選、6月の県総体に向けたチーム作りとして、この数年間毎年参加している。ただし、参加費を除いて全て個人負担である。

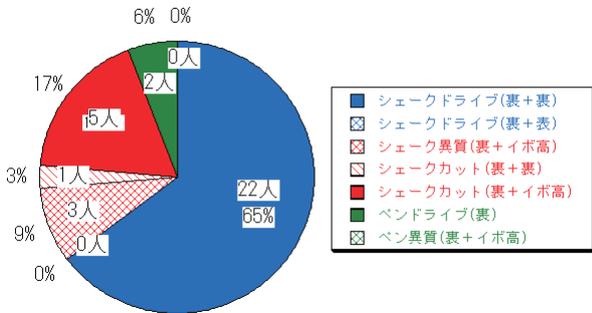
以上、いずれにしても学生(保護者)の負担は相当大きいことは事実である。

(5) 戦型

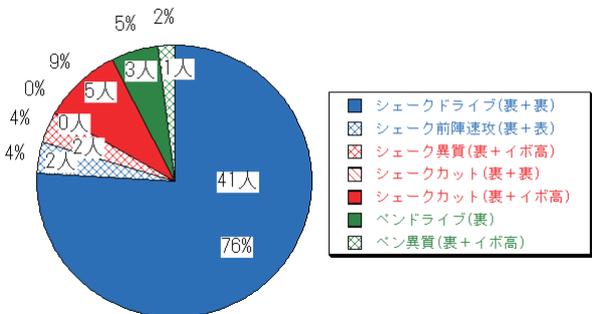
図5に本校卓球部員の戦型割合を示す。(a)に2003年7月の状況を、(b)に2009年8月の状況を、(c)に2017年8月の状況を示す。(a)~(c)の図を比較すると、調査する度にシェーク攻撃型(ドライブ, 前陣速攻)の割合が増えてきていることがわかる。ただ、2017年度においてもシェーク異質型(裏+イボ高), シェークカット型(裏+イボ高), ペンドライブ型(裏), ペン異質型(裏+イボ高)の選手が僅かではあるがいてくれることは心強い。いろいろな戦型の選手が部内にいることは、クラブ全体の技術力向上という意味でも大切である。



(a) 2003年7月の状況



(b) 2009年8月の状況



(c) 2017年8月の状況

図5 本校卓球部員の戦型割合

3. この30年間の取組み

3.1 高体連に加盟するまでの約6年間

著者が本校卓球部の顧問を引き受けたのは、1983年の4月である。大学の修士を出たばかりで、26歳であった。まえがきでも述べたように、本校卓球部のOBでもあり卓球経験者ではあったが、学生時代に実績を残した選手でもなかったし、とりわけ指導力という意味ではゼロからのスタートであった。

著者がまず目標としたのは、「中国地区高専大会団体戦でベスト4に入る」ということであった。その当時から中国地区には高専が8校あり、予選リーグ(4校毎の2リーグ)を2位以上で通過しない限りベスト4には入れない。その当時の本校の実力からして、すぐに達成できる目標とは思わなかったが、いつかは必ずという思いにかられたことは今でもよく覚えている。

目標達成に向けて最初に行ったことは、外部指導者に来て指導をしてもらう(選手も顧問も)ということであった。運良く、大崎上島の中に卓球が大好きな沖原斎氏(著者の卓球の師匠。故人)がおられ、いろいろと指導を受けた。沖原氏から学んだことは多いが、当初は次のことをかなり意識して学生に指導をした。

- ① 回転: ドライブ, サーブ, レシーブ力の強化。
- ② コントロール: ドライブ, レシーブ力の強化。
- ③ サーブ: 最初の攻撃という観点。できるだけ同じフォームで上下左右の回転(ナックルも含めて)を出す練習。できるだけ同じフォームで長い短い・早い遅いをコースを含めて工夫して出す練習。サーブは一人でできる練習であり、いいサーブを持つと試合を有利に展開できる。
- ④ 戦型: 前章の(5)で戦型の変遷について述べたが、卓球はいろいろな戦型に慣れていないと勝つことができないということを強く指摘された。とりわけカット選手を育てよということと言われた。カット選手の育成も開始した。ちなみに、著者も攻撃型の選手であったが、選手育成の思いから自らカット型に変更した。今となつては、この選択がその後の選手育成・指導に非常に役立ったと思っている。
- ⑤ 勝ち癖を付ける: どんな試合でもいので、まずは試合に勝つ経験をさせる。やればできるということを経験(体験)させる。今でい

うところのメンタルを強くするということにも繋がっている。

- ⑥ 練習量：練習・試合を含めて、ある量をこなさない試合には勝つことができない。当初は試合数も少なく、選手は年数回の試合のためにコツコツ練習していたが、よく考えてみるとこれで勝てるほどスポーツの世界は甘くはない（どの世界においても言えることであるが）。夜の練習、部内での試合もできるだけ行うようにした。

①から④と⑥（図3に示すように、対外試合数は記録にも残っていないくらい少なかったが）の指導と練習が功を奏したかどうかは正直よくわからないが、顧問を引き受けたその年の11月末に、島内で行われた試合（団体戦）で初めて準優勝することができた。その時の賞状を図6に示す。今でも部室に掛けてあるが、このことが選手のやる気に繋がり、その翌年には当初の目標であった中国地区高専大会団体戦でベスト4に入ることができた。その時の賞状を図7に示す。本校卓球部としては、選手も然ることながら著者自身も、目標を持って努力すれば「夢は叶う」ということの初めての経験（体験）であったように思う。

その後1985年度から1990年度の前期まで他機関（大学・高校）で勤務した後、再び本校卓球部顧問を引き受けることになった。先の2年間の経験を基に、次の目標として「中国地区高専大会で団体優勝する」と「中国地区高専大会個人戦で上位入賞する」を掲げた。しかし、それからの4年間はなかなか思うような成績を残すことはできなかった。ただしその間、1992年度の中国地区高専大会で玉山敏行君が男子シングルスで3位入賞（付図1）を、1993年度の中国地区高専大会で保本香織さんが女子シングルスで優勝（付図2）を果たしてくれた。団体戦での優勝は叶わなかったものの、個人戦での上位入賞という目標は達成することができた。

なお、この間、団体戦で勝てなかった理由は、技術的な面での練習環境（著者の指導力も含めて）は向上したものの、上述の⑤と⑥に示すところの勝ち癖を付ける環境がなかった＝試合数が少なかったということに尽きると考えている。

### 3. 2 高体連に加盟してからの約24年間

先の報告<sup>1), 2)</sup>で述べたように、本校卓球部が高体連の大会に初めて参加したのは、1994年夏の尾三地



図6 初めての団体準優勝

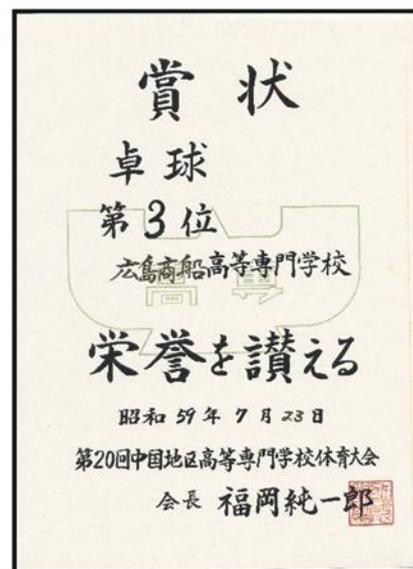


図7 初めての中国地区高専大会団体3位入賞

区1年生大会（地区内のみでの大会、個人戦）であった。夏休みを返上しての練習の結果、その大会において男女共に優勝することができた（男子シングルス松本剛君：付図3、女子シングルス佐渡原香織さん：付図4）。このことがきっかけとなり、「やればできる」の気持ちを卓球部全員が持つようになり、本校卓球部は活動のスタイルが大きく変わっていった。図3に示したように大会参加数もどんどん増えていった。その結果としての成果の詳細については次章で述べるが、ここでは成果が出るようになるまでの過程と、成果の概略を述べる。

高体連に加盟後、卓球部としては二つの目標を掲げた。一つは高体連の目標であり、「男女共、県で上位（団体戦・個人戦）に入る（ベスト8、ベスト4以上）→中国大会に出場する」というものであった。

高専大会では、「中国地区高専大会で団体戦・個人戦で優勝する→全国高専大会で団体戦・個人戦で優勝する」というものであった。

高体連では、女子が県総体で団体戦ベスト 8 を 1995 年度に達成した。ただし、ベスト 4 に入ったのは 2015 年度の春で、ベスト 8 に入ってから 20 年を要した。男子は県総体でベスト 4 に入るのに 13 年を要した。いずれも上位に食い込むのに長い年月を要した。ちなみに、中国高校卓球選手権大会の団体戦には男子が 10 回（今年度 10 回表彰：図 8）、女子が 8 回出場することができた。付表 1 に中国卓球選手権大会学校対抗出場回数一覧表（第 1 回～第 64 回）を示す。本校が高体連に入って活動してきた成果を見ることができる。2013 年度には男子団体で、中国地区でベスト 8 に入ることもできた（図 9）。

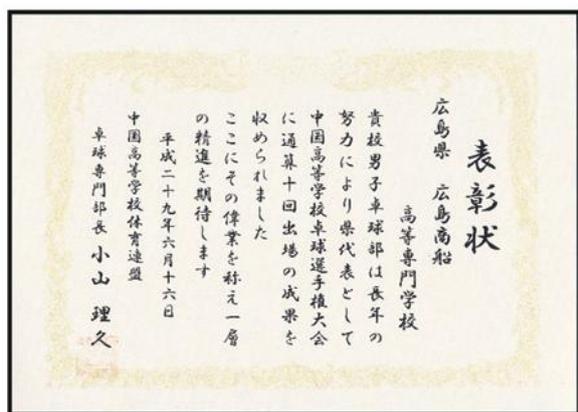


図 8 中国高校卓球選手権大会通算 10 回出場表彰 (男子団体)

高専大会では、高体連の活動が引き金となり 1994 年度以降徐々に成果が出る（出せる）ようになった。こちらまずは女子の方が先に成果を出すようになり、男子はその後を追いかけるといった感じであった。「中国地区高専大会で団体優勝する」の目標を達成できたのは 2003 年度であり（図 10）、「全国高専大会で団体優勝する」の目標を達成できたのは 2011 年度である（図 11）。これまでに中国地区高専大会で男子団体優勝 8 回、全国高専大会で男子団体優勝 4 回を経験できた。女子については、2014 年から中国地区限定で団体戦を始めた。2014 年度の優勝を皮切りに（図 12）、今年まで 4 年連続で優勝している。

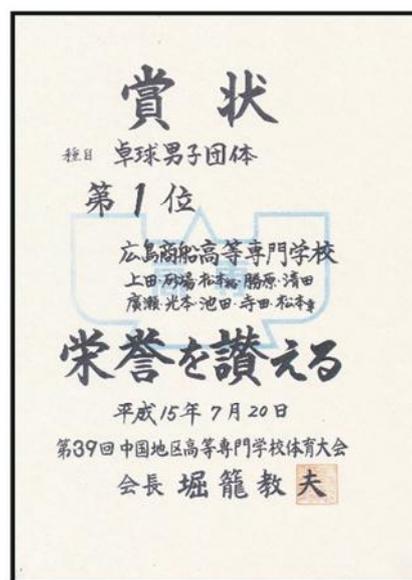


図 10 中国地区高専大会での男子団体初優勝



図 9 高体連で中国地区ベスト 8 に入賞

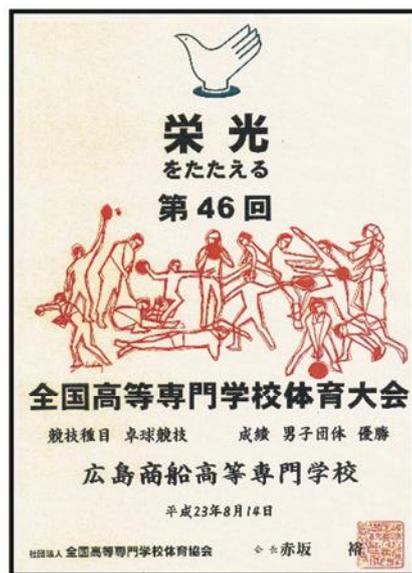


図 11 全国高専大会での男子団体初優勝

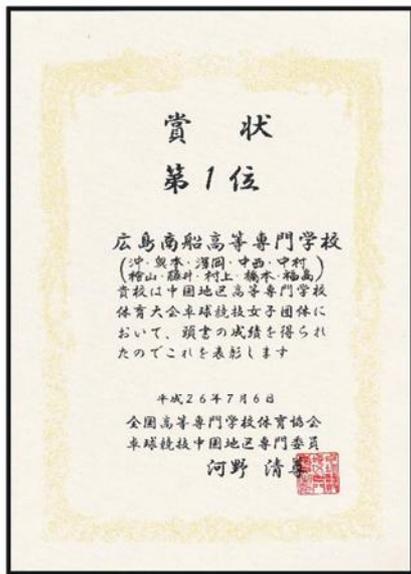


図12 中国地区高専大会での女子団体初優勝

全国では2015年度から地区対抗戦ということで、女子団体の道が開かれた。2015年度2位、その後2年連続で3位である。個人戦の成果(ダブルスとシングルス)については、次章で述べる。

2011年度から、高体連を卒業した学生が日学連(大学生の活動の場)に入って活動するようになった。日学連の活動は学生主体で行っている。学生の活動目標は、「インカレ出場」ということであったが、2016年度春の中国学生選手権春季大会で男子は1部の2位になり(参考までに本大会の順位は、1位:岡山商科大学, 2位:広島商船高専, 3位:広島大学, 4位:山口大学, 5位:岡山大学, 6位:広島修道大学), インカレに出場することができた。まさに、夢が叶ったということである。

学生が夢と目標を持ち、みんなで一生懸命努力すれば、こんなに多くの夢と目標が達成できるということを、この30年間の取組みを通して改めて教えられた。学生がやる気になった時(スイッチが入った時)のパワーはもの凄いなものである。

### 3.3 卓球練習の基本

卓球の練習方法や技術指導に関して、著者がこれまで多くの方から教えていただき実践してきたこと・思うところを簡単に整理してみる。卓球関係者であればあたり前のことかも知れないし、異論もあるかも知れないが、その点のご容赦願いたい。

#### (1) 卓球に必要な基本技術

卓球を行う上で、選手が身につけなければならない

い基本技術は、大きく次の5つである。

- ① フォアハンド
- ② バックハンド
- ③ 台上処理
- ④ サービス
- ⑤ レシーブ

以上の練習を行う過程で、「弾く」と「かける」を意識して練習することが大切である。

#### (2) 卓球がうまくなるための3つのポイント

- ① 考え方(マインド): 簡単なようで、指導において一番難しい点である。ここが成長すると、②は伸びる。指導者の人間力が問われる点である。
- ② 技術(スキル): 普段の練習は、基本的にはこの習得のために行っている。
- ③ 道具(ツール): 技術に合わせて、道具も選ぶ必要がある。前章の(5)で示した戦型との関係も考慮しなければならない。

#### (3) 打ち方(身体の使い方)の基本

球質(コース含む)に合わせて、次の三つの基本動作を上手に組み合わせて使うことが大切である。

- ① 回転: 体(腰, 肩, 肘, 手首)の回転を利用して球を打つこと。身体の使い方によってはひねり(一方向の回転)や、ねじり(逆回転が入った動き)とも言われる。パワーとスピードのある球が打てる。
- ② 反動: 力学的には、他に力や作用を及ぼしたときに、その反作用で押し返されることを言う。台上処理(フリック, チキータ)等はこの感覚である。卓球の場合、小さな動作でパワーのある球を打つことができる。
- ③ ムチ動作: 手足をムチのように使って体幹で生み出したパワーを、手足等の末端部分に伝える動きのこと。パワーとスピードのある球が打てる。

#### (4) 卓球技術の5つのポイント

卓球指導者によっていろいろ意見の違いのあるところと思われるが、著者は偉関晴光氏の言われる理論<sup>3)</sup>に共感する。偉関氏の言われる5つのポイントとは次のようなことである。

- ① スピード
  - ・ボールのスピード
  - ・打点, ピッチのスピード
  - ・体の動きのスピード
  - ・目線, 観察力のスピード
  - ・反射・判断のスピード

- ・戦術の切り替えのスピード
- ② コントロール
  - ・ボールを落とす場所 (落点)・コースのコントロール
  - ・弧線のコントロール
  - ・自分のラケットのどこに当てるかのコントロール
  - ・相手を思いのままに動かすコントロール
  - ・試合のリズムのコントロール
  - ・メンタルのコントロール
- ③ パワー
  - ・球質の重み・球の重み
  - ・自分の力で引いてから打つとパワーが出る
  - ・単にスピードがある, 単に回転があるだけではない
  - ・相手にプレッシャーを与えるもの
- ④ 変化
  - ・相手のボールに対する対応力のこと
  - ・いろいろな変化を作り出せる能力のこと
- ⑤ 回転
  - ・他の要素, コントロール・パワー・変化をさらに強化するための重要な要素
  - ・回転の幅をつけることで変化の幅を広くする
  - ・回転をかけることで弧線を鋭くでき, コントロール力もアップする
  - ・スピード・パワー・回転が球質にとって大事な要素
- (5) 台上処理
  - ① ツッツキ
  - ② ストップ
  - ③ フリック (回転, ナックル, 流し)
  - ④ チキータ

台上処理技術として, ①は誰でも使う技術。②～④の技術は使えると有利であり, 卓球がより面白く・好きになる技術である。
- (6) ツッツキ
 

ツッツキはレシーブの基本であるが, ただ返球するだけでなく, しっかり切って返すことが (も) 大切である。理由は, 次の3点である。

  - ① 相手の回転の影響を受けにくい
  - ② 相手にスマッシュを打たれにくい
  - ③ 練習相手のためにもなる
- (7) 練習の組立て方
  - ① システム練習 (1対1練習)
  - ② 多球練習
  - ③ 練習試合

- ④ 課題練習: 得意な技術はさらに磨きをかけ, 苦手な技術は徹底的に克服する。個人の目標, モチベーションによるところが大きい, 強くなる選手は必ずやっている。仲間が見ていない所でやる練習でもあり, 秘密の練習とも言えよう。

①～③はチームとして必ずやるべき練習であり, 本校卓球部もこの練習によって全体のレベルアップに繋がったと考えている。①と②の練習においては, フットワーク練習をしっかりと行うことも大切である。また, ②の練習を行うために, 選手は「球出し」も上手にならなくてはならない。強い選手は球出しも上手である。

(8) 強くなるために

- ① 夢 (長期目標) を語る: 自分自身がどのような選手になりたいか, どういう成績を残したいか等々を語る。
- ② 目標設定を行う: 夢 (長期目標) → 中間目標 → 現実目標 (実現可能な目標) を立てることが大切。
- ③ 心 (心理面)・技 (技術・技能)・体 (体力・能力)・智 (データ分析・戦術) の強化。
- ④ 努力: チームと個人の両方。  
強くなるためには, ①・②・③を明確にして, ④に示したように努力することが大切。

(9) 試合に対する気持ちの持ち方

著者はこれまでに, 日本卓球協会においてメンタルサポーターとして活躍された吉澤洋二先生や岡澤祥訓先生の講習会に参加させていただいた。その時の先生方の話の一部を紹介する。著者が学生を大会引率する上で (ベンチコーチ含む), とても役立つ内容である。

- ① 大会前: 明日は勝つぞという強気の発言だけでなく, これまでやってきたことを信じて, 明日はやれることをやろうという気持ち。完璧を目指すな。
- ② コートに入る前: 「今やれることを精一杯やろう!」の気持ちと声掛け。強い緊張時→リラクゼーションの手法 (呼吸法, 筋弛緩法等) も使う。選手の状態を良く知っておくことも大切である。
- ③ 試合中:
  - ・連続失点した場合→深呼吸
  - ・勝てたと思った時 (マイナス思考の入り口) →攻めろ
  - ・もうだめだと思った時 (相手が勝てると感じ

た時) →ラストチャンス (ここで攻めれば逆転できる)

(10) メンタルのコントロール

① プラス思考

- ・終わったことを悔やまない
- ・ミスを恐れない
- ・自分はチャレンジャーだ
- ・もし負けたらとかいう事は考えない等

② セルフトーク

- ・心の中のつぶやき
- ・大丈夫, 大丈夫!
- ・ここ集中!
- ・ここから, ここから! 等

③ 大切なことは

- ・攻めて負けても悔いはない
- ・実力を発揮して負けたら仕方ない
- ・今やれることをしっかりやるだけ
- ・だいたいできたら勝てる
- ・最後の瞬間まで諦めない

(11) 指導に対する基本的スタンス

著者の指導の基本的なスタンスは、先の報告<sup>2)</sup>と全く変わっていない。むしろ、その意を強くしているところである。この節の最後にスポーツ指導者の役割について、次の二つを再度紹介しておく。スポーツ指導者としてだけではなく、教育指導者(教員)としても、とても参考になるものである。

① *Players First*<sup>4)</sup>

スポーツ指導者の役割は、「プレイヤー自身が‘なりたい’と思う自分に近づくために、その活動をサポートすること」といえる。スポーツは自らの意思で自由に行うものであって、誰かに強制されるものではない。実際にプレイするのは指導者ではなく、プレイヤーである。指導者はあくまでも脇役であって、主体はプレイヤー、*Players First*であるという共通認識を持つべきである。

② *PATROL*<sup>4)</sup>

*Process* (結果ではなく、経過を重視する)

どんな結果であろうとも、結果にいたるまでの努力や行動があったはずである。いい結果が出た時も悪い結果が出た時も、プレイヤーと一緒に原因を考える。

*Acknowledgment* (承認する)

プレイヤーの意思を尊重し、その行動や言動を承認することが重要。自らの存在を認められることが、プレイヤーにとって大きな励みになる。

*Together* (一緒に楽しみ、一緒に考える)

何よりも指導者自身が楽しくなければ、プレイヤーも楽しくない。プレイヤーと共に楽しむ。

*Respect* (尊敬する, 尊重する)

全ての人を尊敬する気持ちを持つ。プレイヤーの個性を尊重する。

*Observation* (よく観察する)

プレイヤーをよく観察する。体調は万全か、悩みはないか、見ていなければわからない。‘見られている’ことでプレイヤーは安心する。

*Listening* (話をよく聞く)

自分が話すより、プレイヤーの話を聴く時間を多く取るよう心がける。指導者が‘なって欲しいプレイヤー’ではなく、プレイヤー自身が‘なりたい’自分を意識し、気付かせるためには、プレイヤー自身にたくさん話す機会を作ってあげること。

### 3. 4 取組みのキーワード

これまでの本校卓球部の取組みにおいて、我々の成長に大きく関係した重要なキーワードを次に示す。前節と重なる点もあるが、本校卓球部卒業生・本校の現役卓球部員・未来の本校卓球部員に伝えたいので、この点もご容赦願いたい。

(1) 夢

必ず必要。漠然でもいい。自分を鼓舞するもの。いつかはという、その気持ちがとても大切。夢は語ることも必要。夢に向かって逃げない。

(2) 目標

夢ではない。達成可能なものであること。いつまでに達成するかが大切。大きな目標(遠くを見ること)と、小さな目標(近くを見ること)、その両方が大切。目標を持つと、そのことの達成に向けて、自分達がやらなければならないことがわかり、さらにやらなければならないことの優先順位もわかる。

(3) 挑戦

夢に向かって目標を立て、挑戦し続けることが大切。やる気にならないと何も成功しない。失敗を恐れない。失敗を通して成功のヒントが見えてくる。

日本卓球協会を長年サポートされてきた、東広島市にある(株)ATHERの米澤和洋先生から教えていただいた次の言葉が強く印象に残っている。「挑戦無くして成し遂げられた偉業はいまだかつて一つもない。」それは、1998年の長野オリンピックのスキージャンプ競技で、テスト・ジャンパーを務めた高橋竜二氏の言葉だそうです。高橋氏は「思いは力だ。夢は必ず現実となる。」とも言われている。

#### (4) 集中

集中力を高める行動を習慣化する必要がある。ルーティーンを持つことも大切である。集中力を高めるためにはいくつかのことが必要となる。①目標を明確化する。これにより、できるまで自分を追い込むことができるようになる。②時間を管理する(例えば、練習時間と休憩時間の管理等)。時間を有効に利用すること。何事もただらたししない。やらされる練習から、自らやる練習へ。③健康管理をする。メンタルも含めて健康でなければ、集中することはできない。

#### (5) 達成感

試合に勝つ学生は、達成感を感じたことが多く、小さな成功体験を積み重ねている。成功体験のスパイラルを作ることが大切である。「やればできる」の経験(体験)をたくさんし、できなかったことができるようになることの喜びを感じ(できる喜び)、成長している自分を感じることの喜びを味わう(のびる喜び)、これが達成感・成功体験に繋がる。

注意しなければならないのは、選手にはプラトリーの時期があるということである。プラトリーを脱するためには練習強度の見直しをする必要がある。見直しをしないと技術レベルはいつまでも停滞し、場合によっては、長期的スランプに発展してしまう恐れもある。指導者はこの時期を見過ごさないようにし、適切なアドバイスをするのが大切である。

#### (6) 工夫

3・3節の(7)で練習の組立て方について述べた。強くなるためには、練習では、①システム練習(1対1練習)、②多球練習、③練習試合、④課題練習を行うことが必須であるし、そのことを試す場所としての実践(大会参加:経験に勝るものなし)を積むことが必要である。

しかし、その練習・試合の中に、常に工夫すること(姿勢)が大切である。そのための準備として、平日頃から卓球関係の本を読むとか、参考になりそうな動画を見ておくとかといったことも、工夫するきっかけ作りになる。

指導者としての工夫は、プレイヤーとコミュニケーションを上手に図ることである。選手のニーズや要望・選手個々の特徴に対応した話し方の工夫が大切である。指導者は、多様なニーズに対応するため、常に自己研鑽し、自ら成長・発展を続けている必要がある。

#### (7) フィジカルとメンタル

「練習は試合のように、試合は練習のように」、よ

く言われる言葉であるが、選手を見ていてなかなかそうはできないし、その気持ちもよくわかる。

フィジカルとメンタルの両方を鍛えていないと、なかなか試合に勝てないのは事実である。試合になった時、自分はこれだけ練習してきた(筋トレ・ランニング等含む)、やれることはやってこの試合に臨んでいるという気持ちを持てれば、そのことがメンタルにも大きく影響する。フィジカルトレーニングはメンタルトレーニングにも繋がるということである。いずれのトレーニング方法もたくさん紹介されているので、ここでは省略する。

#### (8) 反省

目標に向かって練習や試合を経験する中で、達成できた理由、達成できなかった理由を知ることは大切である。反省というとネガティブ感があるかも知れないが、ポジティブに反省ができると、次のステップに繋がる。反省の中にこれまでやってきたことの否定の必要はない。指導者も同じである。やってきたことは全て尊いことであるという認識のもと、たりない部分をプラスアルファしていくという意味で、反省する(できる)ことが必要である。

#### (9) 応援する・される・声を出す

卓球は、個人戦(シングルスとダブルス)はもちろんのこと、団体戦といえども個人と個人が戦って、勝敗が決まるスポーツである。それでは夫々一人で戦っているかということ、実は応援者と共に戦っていることを認識しなければならない。実際に応援が有ると無いのとでは結果が大きく違ってくる。応援のお陰で元気を出して頑張れるというのは事実である。著者はスポーツの良さはここにあると考えている。本気で応援されたことのある人、本気で応援したことのある人は、人は一人ではないことを知る。そして、誰かのためにとか、みんなのためにとかという気持ちを持つことができるようになる。スポーツをすることの大切さの一つである。

応援は、心の中でも出来るが、声を出すことが大切である。相手に思いを伝え、元気を送るには声に出して伝える(声援という)ことがまず基本である。結果的には、自分も元気になる。気持ちのいい応援・声出しは本当に大切である。気を付けなければならないのは、間違っても相手の選手・ベンチに嫌な感じを与えるような応援・声出しは絶対にしてはならない。あくまでスポーツマンシップにのっとったものでなければならない。

#### (10) セルフトーク

3・3節の(10)のメンタルのコントロールで述べ

たように、セルフトークはメンタルトレーニングのスキルの一つである。セルフトークとは、自分が自分自身に対してかける言葉（自分を励ます言葉）のことである。人間の心は言葉によって大きな影響を受ける。これは誰しもわかっていることであるが、これを上手く使えない選手は意外と多い。選手は自分自身のセルフトークを持つべきだし、持つ（使える）努力をしなければならない。

セルフトークとして大切なポイントを整理すると次のようになる。①ポジティブ（プラス思考）な言葉であること。②気持ちを奮い立たせるような態度と一緒に使うこと。③何度も何度も言うこと。④本気で言うこと。⑤相手に不快な言葉は絶対に使わないこと。

#### (11) 仲間

卓球は一人では上達しない。練習相手がいるから上達する。多くの仲間がいるから自分も一緒に頑張れる。苦しみ喜びを共有するなかで友情が生まれ、一生の友達もできる。

仲間は大切にするもの、仲間は裏切ってはならないものである。また、仲間のために自分の責任を果たすことも大切である。「仲間・信頼・責任・友情」、スポーツを通して学び・育てて欲しい。

#### (12) 感謝

スポーツ（我々の場合は卓球）をするため・続けていくためには、多くの人の協力・支えが必要である。それは保護者であり、仲間であり、監督・コーチであり、学校関係者であり、地域の卓球関係者である。実に多くの方のお世話になっている。

このことに対して気付く時、我々は「感謝」の気持ちでいっぱいになる。選手にはこの感謝の気持ちをしっかり持って欲しい。そして言葉として発して欲しい。「ありがとうございます!」、「お世話になります!」この言葉が大切である。この言葉が心から言える選手は、大きく成長する。あらゆることに積極的になる。自分だけでなく、誰かのために一生懸命頑張れるようになる。

#### (13) 燃えろ!

卓球の試合を含めて、何事にも「燃える」気持ちを忘れないでほしいという著者の思いである。本校卓球部に二つある部旗の一つに掲げた言葉である（図 13）。

#### (14) 感動

試合は自分との戦いでもあるが、必ず対戦相手がいる。選手はなぜか、相手のことより自分の調子とかを重視して試合を進める傾向がある。相田みつを

氏の詩<sup>9)</sup>の中に「感動とは感じて動くと書くんだなあ」というのがある。著者は選手に常々、相手の考え・気持ちを感じながら（相手の考えていることを見抜いて）試合を展開するようにと言っている。本来の感動の意味（ある物事から強い印象を受けて心を動かされること）とは少し違った捉え方であるが、選手に冷静に戦ってほしいとの願いを込めて、本校卓球部に二つある部旗の一つに掲げた言葉である（図 14）。もちろん、卓球の試合を通して多くの感動を得て欲しいとの願いも含んでいる。



図 13 本校卓球部の部旗（燃えろ!）



図 14 本校卓球部の部旗（感動）

## 4. 活動の成果

### 4. 1 高体連関係

表 3 に高体連における本校卓球部の活動成果を示す。高体連に加盟して 24 年になるが、男子は前半の 12 年間でコツコツ実力を付け、後半の 12 年間で県でも戦えるチームに成長したことがわかる。女子は比較的早くから成果が出たことがわかる。男子に比べて少ない部員数ではあったが、チームとして戦型の工夫等も行ったことが功を奏したように思う。

勝っても負けてもそれぞれの試合にいろいろな思い出があるが、この 24 年間の中で学生が残した最高

の成績（ベスト4以上で、最初に達成した記録についてのみ）及びトピックスを紹介しておく。

(1) 男子

- ・2007年度県総体団体3位（付図5）
- ・2007年度県新人団体3位（付図6）
- ・2007年度選抜県大会団体2位（付図7）
- ・2009年度県選手権ダブルス3位（付図8）
- ・2010年度国体予選3位（付図9）
- ・2011年度県新人ダブルス3位（付図10）
- ・2013年度県全日本ジュニア1位（付図11）
- ・2013年度県新人シングルス2位（付図12）

(2) 女子

- ・2004年度県新人ダブルス3位（付図13）
- ・2013年度県選手権シングルス2位（付図14）
- ・2013年度県全日本ジュニア1位（付図15）
- ・2013年度県新人団体4位（付図16）
- ・2013年度選抜県大会団体4位（付図17）
- ・2015年度県総体団体4位（付図18）

(3) トピックス

① 2013年度県選手権シングルス2位の藤井未来さんは、本校卓球部初のインターハイに出場した。

② 2013年度県全日本ジュニアでは、中村亮也君と藤井未来さんが本校卓球部初のアベック優勝を果たし、全日本選手権に出場した。藤井未来さんは2014年度も優勝し、全日本選手権に2年連続出場した。

③ 2013年度には中国高校卓球選手権大会で、男子団体初の中国地区ベスト8に入ることができた。

④ 全国選抜大会男子シングルの部（過去に全国クラスの大会に参加したことがある者は出場できない）に、2008年度には松浦虎三郎君（ベスト8に入賞）が、2009年度には有津和秀君が、2015年度には飯田慎吾君がそれぞれ県代表として出場した。

## 4. 2 高専関係

表4に中国地区及び全国高専大会における本校卓球部の活動成果を示す。参考までに表中の備考欄に、中国地区大会および全国大会への出場枠も示しておく。2014年度から、女子団体戦が中国地区で始まった。2015年度から、地区対抗戦という形式で（ダブルスとシングルの地区代表選手でチームを作る）女子団体戦が全国大会で始まった。

この表から、高体連の成果に連動するように、高専大会でも成果が出るようになってきたことがわかる。それは男子についても、女子についても言えることである。

参考までに、付表2に中国地区高専大会卓球競技の過去の栄光の記録を、付表3に全国高専大会卓球競技の過去の栄光記録を示す。本校分のデータについては全て記録しているが、他校分についてはわからないことが多々ある。空欄については、過去の記録が不明ということでご容赦願いたい。

男子団体においては、これまでに全国大会に10回出場（2003年度、2004年度、2009年度、2011年度～2017年度）している。全国大会では優勝4回（2011年度～2013年度、2016年度）、2位に2回（2014年度、2015年度）、3位に3回（2004年度、2009年度、2017年度）入賞という成果を残せた。

女子団体においては、中国地区大会で2014年度から4年連続で優勝している。全国大会においても地区対抗という形式ではあるが、これまで3度開催された大会で2位1回、3位2回と全て入賞している。

個人戦（ダブルスとシングルス）においても、この30年間で中国地区及び全国高専大会で、数々の好成績を残すことができた。全国高専大会における優勝者及び高専大会におけるトピックスを紹介しておく。

(1) 男子ダブルス

- ・2010年度：有津和秀・松浦虎三郎組（付図19）
- ・2011年度：有津和秀・松浦虎三郎組
- ・2012年度：有津和秀・松浦虎三郎組
- ・2013年度：戸田泰之・増井明児組（付図20）

(2) 男子シングルス

- ・2011年度：松浦虎三郎君（付図21）
- ・2012年度：有津和秀君（付図22）
- ・2015年度：渡辺大智君（付図23）
- ・2017年度：飯田慎吾君（付図24）

(3) 女子ダブルス

- ・2000年度：佐渡原藍・末廣明菜組（付図25）

(4) 女子シングルス

- ・2014年度：藤井未来さん（付図26）

(5) トピックス

① 中国地区高専大会で男子団体優勝8回、全国高専大会で男子団体優勝を4回果たせた。

② 全国大会の男子ダブルスで、有津和秀・松浦虎三郎組は、2010年度から2012年度まで3年連続優勝を果たした。（付図27）

③ 男子は、2011年度と2012年度、団体・ダブルス・シングルの3冠を達成した。

④ 中国地区大会の女子シングルスで藤井未来さんは、2013年度から2017年度にかけて5連覇を達成した。

表3 高体連における本校卓球部の活動成果  
(a) 男子

大会 年度	総体・選手権			1年生	選抜	新人			
	団体	個人		個人	団体	団体	個人		
		W	S	S	兼新人		W	S	
H6	1994	-	-	1	兼新人	2	×	3	
H7	1995	6	×	2	×	×	×	×	
H8	1996	8	×	×	1	兼新人	2	×	3
H9	1997	3	3	3	×	兼新人	7	×	×
H10	1998	7	×	3	2	兼新人	5	×	2
H11	1999	5	×	3	1,3,3	1	2	1,3	2
H12	2000	2	1,3	1,3	1,3,3	1	1	1,2,3	1,3
H13	2001	1	1,2	1,2,3	2	3	1	2,3	3,3
H14	2002	1	1,2	3,3	×	3	1	1	2,3,3
H15	2003	3	1,3	×	3	2	3	1	3
H16	2004	5	2	×	2,3,3	1	1	2	2,3
H17	2005	1	1,3	3	3	1	1	2,3	2,3,3
H18	2006	1	1,2,3,3	1,2,3,3	1,2,3,3	1	1	1,2,3,3	1,2
H19	2007	3	×	×	×	1	1	1,2,3	1,2,3,3
H20	2008	4	b8, b16	b16, b32	1,2,3	1	1	1,2,3	1,2,3
H21	2009	4	3, b16	b8, b16, b32×2	1,3	1	1	1,2,3,3	1,2,3,3
H22	2010	5	b8, b16, b32×3	b16, b32	1,2,3,3	1	1	1,2,3,3	1,2,3,3
H23	2011	5	b8, b16×2	b32×3	1,2,3,3	1	1	1,2,3,3	1,2,3
H24	2012	5	b16×2, b32×5	b32×3	1,2,3,3	1	1	1,2,3,3	1,2,3
H25	2013	4	b16, b32×3	b8, b16	1,3	1	1	1,2,3	1,2,3,3
H26	2014	4	b8, b16, b32	b8, b16, b32×3	1,2,3	1	1	1,3,3	1,2,3,3
H27	2015	×	b32×3	b8	1,3	1	1	1,2,3	2,3,3
H28	2016	5	4, b8	b32×2	3	1	1	1,3	1,3,3
H29	2017	3	b16, b32	b8, b16, b32	1,2	3	3	1	1,3,3

注) ・ 上段 は尾三地区大会, 中段 は県大会の成績, 下段 は中国大会の成績  
 ・ 兼新人 : 当時, 選抜の地区大会は新人戦と兼ねていた  
 ・ 表中の数字は順位を表す(例えば 1 : 1位)  
 ・ b8 : ベスト8      b16 : ベスト16      b32 : ベスト32  
 ・ ×は上位入賞ができなかったということ  
 ・ - は参加できなかったということ  
 ・ ※1 : 全国選抜男子シングルスに広島県代表として出場, b8に入賞  
 ・ ※2 : 全国選抜男子シングルスに広島県代表として出場, 予選リーグ負け  
 ・ ※3 : 全国選抜男子シングルスに広島県代表として出場, b16

表3 高体連における本校卓球部の活動成果 (つづき)  
(b) 女子

大会 年度	総体・選手権			1年生	選抜	新人		
	団体	個人		個人	団体	団体	個人	
		W	S	S			W	S
H6	1994	-	-	-	1	兼新人	1	1,3
		-	-	-	-	×	7	×
		1	3	3	1,2	兼新人	1	2,3
H7	1995	8	×	×	-	×	b16	×
		-	-	-	-	-	-	-
		3	1	1	1,2,3	兼新人	1	1,3
H8	1996	B級2	×	×	-	×	×	×
		-	-	-	-	-	-	-
		1	2,3	1	×	兼新人	1	1,2
H9	1997	7	×	×	-	8	×	b32
		-	-	-	-	-	-	-
		1	1,2,3	1	2	兼新人	1	2,3
H10	1998	×	b16	×	-	×	8	×
		-	-	-	-	-	-	-
		3	1	2,3	×	-	-	3
H11	1999	B級3	×	×	-	-	×	×
		-	-	-	-	-	-	-
		1	1	1	1	4	4	2
H12	2000	×	×	×	-	-	B級3	b16
		-	-	-	-	-	-	b32
		4	2	1	3	1	1	1,3,3
H13	2001	棄権	×	×	-	8	×	b32
		-	-	-	-	-	-	-
		1	1	1,2,3	1,2	1	1	3
H14	2002	×	×	×	-	×	×	b32
		-	-	-	-	-	-	-
		1	1,2	1,2,3,3	1	1	1,2	1,2,3,3
H15	2003	6	×	b32	-	×	6	b16
		×	-	-	-	-	-	b32
		1	1,2	1,2,3	3	1	1,3	1,2,3
H16	2004	6	×	b16	-	×	5	3
		×	-	×	-	-	-	b16, b32
		1	1,2,3	1,2,3	1,3	2	1	2,3
H17	2005	5	b32	×	-	×	×	×
		×	-	-	-	-	-	-
		1	1,2,3,3	2,3,3	1,2,3	1	1	2,3
H18	2006	8	b16	×	-	6	×	×
		-	-	-	-	-	-	-
		1	1,3,3	1,2,3	1,2,3	1	1	1,3
H19	2007	8	×	×	-	8	8	b16×2
		-	-	-	-	-	-	-
		1	1,3	1,2	-	1	1	1,3
H20	2008	8	b16	×	-	×	×	b32
		-	-	-	-	-	-	-
		1	1,2	1	2,3,3	1	1	1,2,3
H21	2009	8	×	b32	-	×	×	×
		×	-	-	-	-	-	-
		1	1,3	1,2	×	1	1	3
H22	2010	×	×	×	-	×	×	×
		-	-	-	-	-	-	-
		2	1,3	2,3	1	1	1	3,3
H23	2011	B級b8	×	×	-	×	×	×
		-	-	-	-	-	-	-
		1	1	1,3,3	×	2	2	3
H24	2012	×	b16	×	-	×	B級b8	×
		-	-	-	-	-	-	-
		1	1,2,3	1,2,3,3	1,2,3	1	1	1,2,3
H25	2013	6	b16×2	2※, b32	-	4	4	4
		×	-	b32	-	×	-	b8, b32×3
		1	1,2,3,3	1,2,3,3	1,2	1	1,2,3	1,2,3,3
H26	2014	6	b16×2	b8, b16	-	4	5	b16
		×	×	b32	-	×	-	b16, b32×4
		1	1,2,3,3	1,2,3,3	1,2	1	1,2	1,3,3
H27	2015	4	b8, b16	b8, b16, b32×2	-	5	4	b16×2
		b16	×	b32	-	-	-	b32×2
		1	2,3	2	1	2	2	2
H28	2016	6	b16×2	b32×2	-	×	B級1	b16
		×	-	-	-	-	-	b32
		2	2	3	×	-	×	3
H29	2017	7	b16	b32	-	-	-	-
		-	-	×	-	-	-	-

注) ・ 上段 は尾三地区大会, 中段 は県大会の成績,  
下段 は中国大会の成績  
・ 兼新人 : 当時, 選抜の地区大会は新人戦と兼ねていた  
・ 表中の数字は順位を表す (例えば 1 : 1位)  
・ b8 : ベスト8    b16 : ベスト16    b32 : ベスト32  
・ ×は上位入賞ができなかったということ  
・ -は参加できなかったということ  
・ ※: インターハイに出場 (本校初)



#### 4. 3 日学連関係

本校卓球部は2013年度日学連に加盟し、活動を開始した。高体連の学生が、1年から3年まで活動するのと同じように、4・5年生以上の学生（専攻科生も含む）が大学生の大会に参加するというのである。団体戦と個人戦がある。本大会には大きく春季と秋季があり、春季大会で優勝するとインカレに出場できる。団体戦は3部からのスタートになるが、男子においては、2015年度の春には2部で優勝し念願の1部に昇格、翌年2016年度の春の大会で（中国学生選手権春季大会：5月26日（木）～29日（日）に山口県維新百年記念公園で開催）、1部の2位になりインカレへの出場権を得た。参考までに本大会の順位は、1位：岡山商科大学、2位：広島商船高専、3位：広島大学、4位：山口大学、5位：岡山大学、6位：広島修道大学である。中国地区の強豪大学を相手に、大学生という1・2年生だけのチームで成し遂げた偉業である。

インカレ出場は加盟当時から本校卓球部の大きな夢と目標であり、3部からスタートし2部、1部へとコツコツ頑張ってきた先輩と後輩の絆が生んだ大きな成果である。学生がやる気を出したらこういう結果も出せるということである。

#### 4. 4 トピックス

この30年間に、学生がどんどん成長して行く姿を見てきた。あれだけ弱かった本校卓球部が、夢と目標を持って、コツコツ努力を積み重ねたことによって、広島県の高校や全国の高専とある程度肩を並べることができるチームとなった。努力すれば「夢は叶う」ということを学生は証明してくれた。

この30年間の総括してみた時、本校卓球部としてのトピックスは、やはり2011年度の東京駒沢体育館で行われた全国高専大会での男子団体初優勝であると思う。男子は2011年度と2012年度、団体・ダブルス・シングルの3冠も達成している。著者の小さな夢や目標を遥かに上回る大きな成果であり、本当にいい経験（体験）を選手と一緒にすることができた。付図28に、2011年度の本校ニュースレターの卓球部の記事を示す。

付図29に、2016年度の本校の学校便り（No.59）の中の、卓球部の活動報告を示す。高体連・日学連・高専の各大会で、学生が生き生きと活動し、輝いている姿を見ていただきたい。

#### 5. あとがき

本報告では、著者の知る本校卓球部の約30年間の取組み内容とその成果について、著者の思いも含めて整理した。要点を整理すると、次のようになる。

(1) 夢を持ち、目標を設定し、工夫・努力すれば、必ず夢は叶う。スポーツなので勝つことは大切なことであるが、もっと大切なことは、夢と目標に向けてどれだけ努力したかということである。その努力の経験こそが、人生の宝であると信じている。

(2) この30年間の活動を通して、高体連・高専・日学連という3つの活動の場が確立できた。

(3) 本校卓球部の今日の活動があるのは、多くの支援者のお陰である。本当に多くの方にご指導・ご声援・ご協力いただいた。

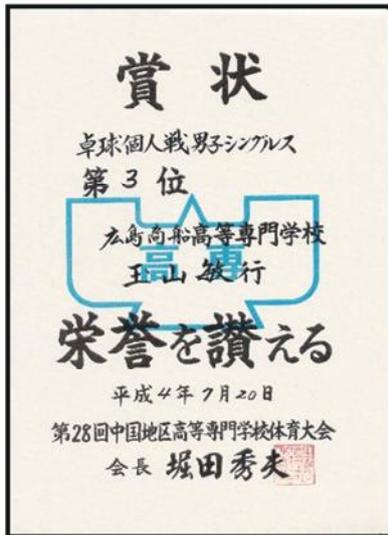
(4) 著者なりに、卓球指導者としてのノウハウを身につけることができた。これはクラブ指導だけでなく、全ての教育活動の場面において有益であり、著者を支えてくれているものである。クラブ活動に携われてきたことに感謝している。

(5) 学生はそれぞれの夢を実現させる大きな力を持っている。我々は精一杯それをサポートすればいい。

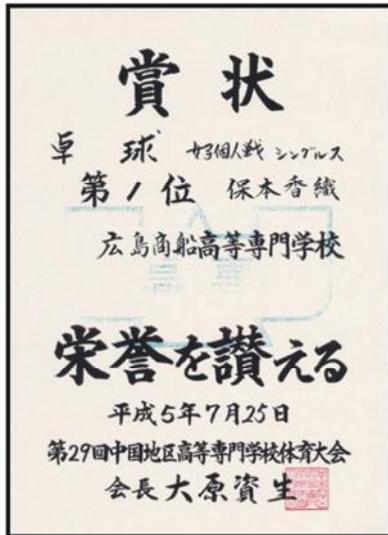
最後に、本原稿のサブタイトルである「夢は叶う」ということであるが、この著者の夢を叶えさせてくれたのは、全て卒業生そして今在学中の卓球部学生である。この学生との出会いなくして、著者が卓球部顧問として語れるものは何一つなかったであろう。学生に心から感謝する。また、保護者の皆様、多くの卓球関係者の皆様（本校教職員、卓球指導者、各種大会の運営者、卓球用品取扱者、卓球部の活動をサポート・応援していただいた地域の方等々）にも心から感謝申し上げる。

#### 参考文献

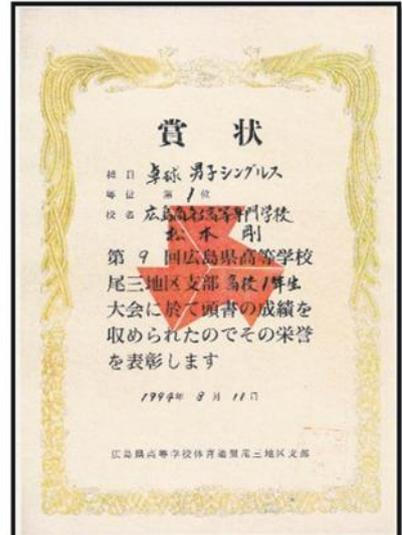
- 1) 瀧口三千弘, 石川富雄, 坂本守: 卓球部この10年間の取組みとその成果 一高体連への参加がクラブ活動に与えた影響一, 広島商船高等専門学校紀要, 第26号, pp.1-13 (2004)
- 2) 瀧口三千弘: 広島商船高専卓球部この15年間の取組みとその成果, 広島商船高等専門学校紀要, 第32号, pp.1-13 (2010)
- 3) <http://www.worldrubbermarket.com/lpl/iseki.html>
- 4) 財団法人日本体育協会: 公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目I, (2008)
- 5) 相田みつを: ベストセレクション・日めくり おかげさん, p4, ダイヤモンド社 (2003)



付図 1



付図 2



付図 3



付図 4



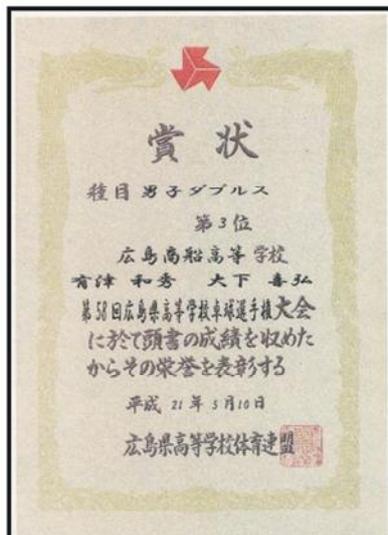
付図 5



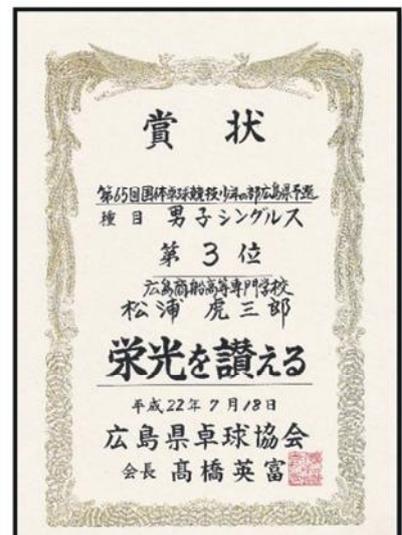
付図 6



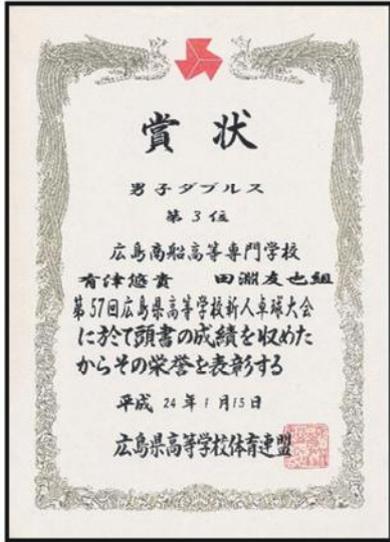
付図 7



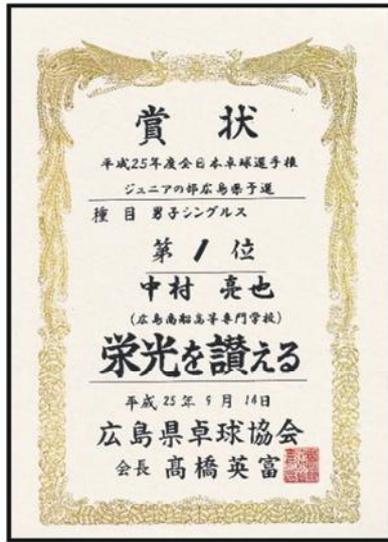
付図 8



付図 9



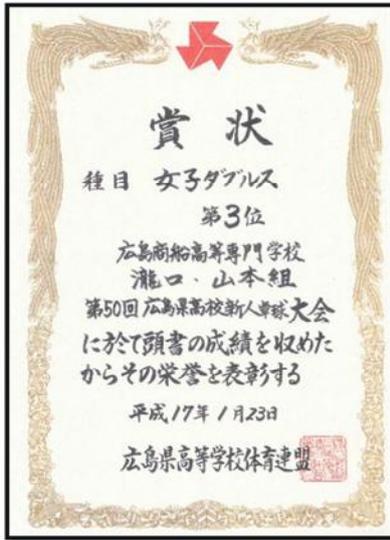
付図10



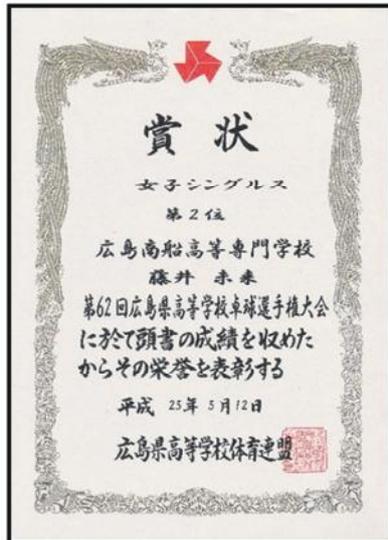
付図11



付図12



付図13



付図14



付図15



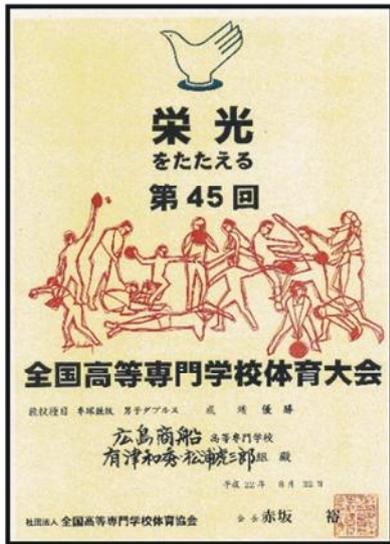
付図16



付図17



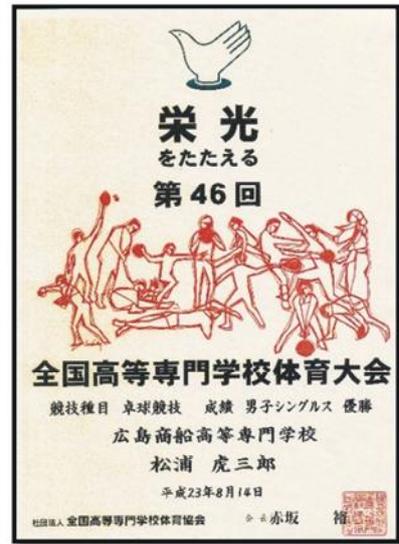
付図18



付図 19



付図 20



付図 21



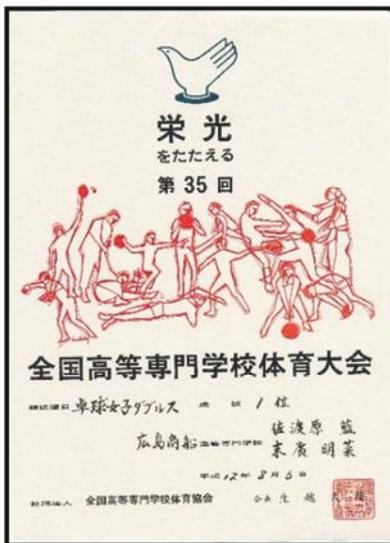
付図 22



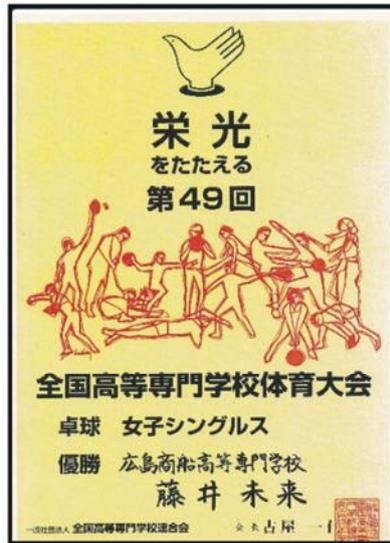
付図 23



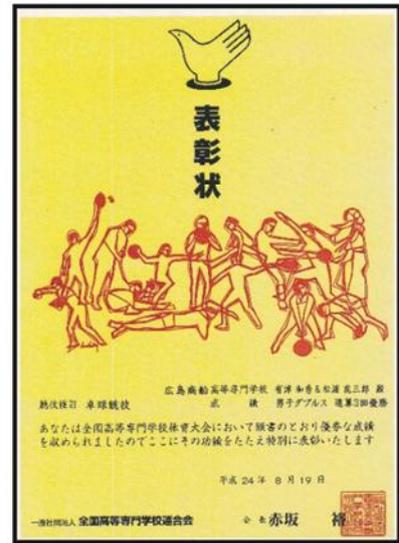
付図 24



付図 25



付図 26



付図 27

**2011.10**  
**大会成績**  
**行事特集**

**卓球部**

**国立 広島商船高等専門学校**  
Hiroshima National College of Maritime Technology  
〒725-0231 広島県豊田郡大崎上島町東野4272-1  
TEL: 0846-67-3022 FAX: 0846-67-3029  
e-mail: kyoumu@hiroshima-cmt.ac.jp  
URL: http://www.hiroshima-cmt.ac.jp/

**広島商船高等専門学校ニュースレター**

**NEWS LETTER**

# 全国大会男子3冠制覇!!



**男子団体  
男子ダブルス  
男子シングル**

流通情報工学科 4年  
松浦虎三郎

昨年の全国高専大会では男子ダブルスしか出場できませんでした。今年は団体・シングル・ダブルスの3種目の出場ができ3種目の優勝を目指してました。団体戦ではエースの自覚を持ち絶対負けられないというつもりで頑張りました。準決勝の福島高専戦では2時間以上の試合となりラストまでもつれ込みましたが、何とか勝利することができました。この戦いで決勝では3-0で優勝することができました。翌日のダブルスでは安定した試合ができ優勝することができました。そして3冠のかかったシングルスでは最後の決勝がとても厳しい試合でした。それでも粘り勝ったのは日ごろの練習の賜物だと思います。これからも支えてくれた人に感謝し練習を頑張っていくと思います。

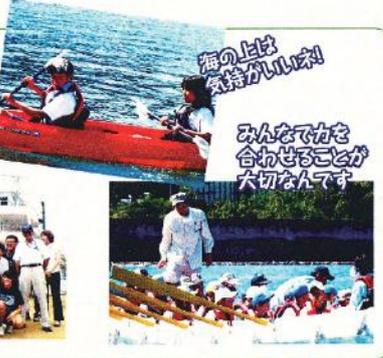
**男子団体  
男子ダブルス  
男子シングル**

流通情報工学科 4年  
有津和秀

8月13日14日に東京で全国高専大会が行われ、広島商船は団体戦初優勝を成し遂げました。準決勝の福島高専との試合は、2時間を越える死闘の中で勝つことができたのは、ベンチにいる監督・コーチや選手全員の応援や観客席からの熱い声援のおかげだと思います。決勝では一関高専(岩手)を3-0のストレートで破り団体戦を制覇しました。ダブルスでは自分たちの攻めのプレーを貫き通し2連覇できて本当に良かったです。シングルの決勝ではあと少しのところまで優勝を逃しました。来年までさらに技術や精神面を鍛えて今以上に強くなるように努力していきます。今回、広島商船卓球部が、このような素晴らしい成果を達成できたのは、支えてくださった家族や先生方や仲間からの協力があったからです。みなさんに対する感謝の気持ち忘れず、そして自分たちが日々卓球できることに感謝し、これからも卓球部全員で目標に向かって頑張っていきます。

## 体験航海

体験航海では、操船技術を見たり、シーカヤックやカッター体験を行うなど、普段では出来ない海と船を存分に体験できます。



## オープンスクール

8月9日(日)の第1回オープキャンパスは多くの方に来ていただき大盛況でした。



第二回 10月30日(日)開催!!  
商船祭も同時開催!!

## 全国大会出場

全国大会で活躍。ガンバリました。



付図 28 2011年度の本校ニュースレター (卓球部男子全国3冠制覇)

賞

## 全国高専大会優勝報告等 —卓球部—

昨年度に引き続き、卓球部の今年度の活動状況を報告させていただきます。今年度卓球部は、部員55人(男子39人(専攻科生1人を含む)、女子16人)で活動しています。今年度は4月から12月の9ヶ月間で、42の大会に参加しています。内訳は高体連関係の大会13回、日学連関係の大会7回、高専関係の大会3回、広島県卓球協会主催の大会4回、一般の大会15回です。さらに他校との練習試合(3回)、卓球講習会への参加(2回)と精一杯努力しました。全ての大会に全員が参加するわけではありませんが、それぞれがいろいろな大会に参加する中で、一人ひとりがチームとしてのモチベーションを保ちつつ、少しずつ選手個々の実力が向上したように思います。

次に今年度の活動成績を、高体連関係の大会、日学連関係の大会、高専関係の大会に分けて、いくつか報告させていただきます。

### (1) 高体連関係の大会(1~3年生出場)

- ①県選手権大会(個人戦):5月7日(土)・8日(日)に安佐北区スポーツセンターにおいて開催され、男子ダブルスでM3小原勇太郎・C3正藤一樹組が3位に、C3土本泰生・D2飯田慎吾組がベスト8に入りました。
- ②県総合体育大会(学校対抗の部):6月4日(土)・5日(日)に三次カルチャーセンターで開催され、男女共に5位に入りました。
- ③中国高校卓球選手権大会:6月17日(金)~19日(日)に鳥取・コココーラウエストパークで開催され、男女共に学校対抗の部(男子9回目、女子8回目)に、個人戦には男子ダブルス2組が出場しました。
- ④県新人戦(学校対抗の部):11月19日(土)・20日(日)に呉市体育館で開催され、男子は

4位に、女子はB級優勝と健闘しました。

- ⑤全国選抜県予選大会(学校対抗の部):12月17日(土)に福山市体育館で開催され、男女共に出場しました。本大会においては男子が4位と健闘し、平成29年2月3日(金)~5日(日)に鳥取・コココーラウエストパークで開催される全国選抜中国地区予選会への出場を決めました。

### (2) 日学連関係の大会(4・5年生出場)

- ①中国学生選手権春季大会:5月26日(木)~29日(日)に山口県維新百年記念公園で開催され、男子は1部の2位になりインカレへの出場権を得ました。参考までに本大会の順位は、1位:岡山商科大学、2位:広島商船高専、3位:広島大学、4位:山口大学、5位:岡山大学、6位:広島修道大学でした。日学連に加盟して5年目になりますが、インカレ出場は本校卓球部の大きな夢であり、3部からスタートし2部、1部へとこつこつ頑張ってきた先輩と後輩の絆が生んだ大きな成果であったと思います。女子は3部で1位でした。
- ②全日本大学総合卓球選手権大会・団体の部【インカレ】:7月6日(水)~9日(土)に鳥津アリーナ京都で開催され、初出場しました。結果は予選リーグ敗退(0勝2敗)でしたが、学生にとってはいい経験、いい思い出になりました。
- ③全日本大学総合卓球選手権大会・個人の部:10月27日(木)~30日(日)に長野市真島総合スポーツアリーナで開催され、中国学生選手権秋季大会を通過したC5塩崎将隆くんとD5中村亮也くんが出場しました。
- (3) 高専関係の大会(1~5年生出場)
  - ①中国地区高専大会:7月1日(金)~3日(日)に、びんご運動公園メインアリーナで開催さ

れ、団体戦は男子優勝(7回目)、女子優勝(2回目)という結果でした。個人戦では、男子ダブルスでC5竹内宏熙・D2飯田慎吾組が2位に、女子シングルスでD4藤井未来さんが優勝、D4中村紗瑛さんが2位という成績でした。今年の大会は本校が担当で行われ、澤岡審判長、有木副審判長のもと、卓球部の学生が進行から審判までしっかり協力してくれました。それぞれいい経験になったと思います。

- ②全国高専大会:8月19日(金)～21日(日)に、豊田市総合体育館で開催されました。男子団体、男子ダブルス1組(C5竹内宏熙・D2飯田慎吾組)、女子シングルス2名(D4藤井未来さん、D4中村紗瑛さん)が出場しました。また、昨年度に引続き女子地区対抗戦も行われました。結果は男子団体優勝(3年ぶり4回目)、女子地区対抗は3位、女子シングルスで藤井さんが準優勝という成績でした。なお、男子団体戦の決勝は6年連続福島高専との戦いでしたが、今年は何とか3-1で勝つことができました。選手一人ひとりが部旗に書かれた「感じて動く」を貫き、最後はみんなで大きな「感動」を得ることができました。来年度もますます激戦が予想される中国地区予選を勝ち抜き、全国大会に出場し優勝を目指して頑張ります。

本校卓球部は、学校・保護者・卓球関係者など多くの方々に支えていただきながら現在の活動を続けています。心より感謝申し上げます。選手も、それぞれの目標に向けて日々努力しております。今後とも、応援・ご協力の程よろしく願いいたします。



中国卓球選手権大会:参加者全員にて



中国地区高専大会:参加者全員にて



全国高専大会決勝戦(対福島高専)の整列



全国高専大会:参加者全員にて

付表1 中国卓球選手権大会学校対抗出場回数一覧表 (第1回【1954年度】～第64回【2017年度】)

広島県			鳥取県			岡山県			島根県			山口県		
学校名	男	女	学校名	男	女	学校名	男	女	学校名	男	女	学校名	男	女
広島商業	59	49	鳥取敬愛	14	51	岡山西	64		松江商業	44	48	柳井商工	57	52
近大附属福山	50	30	倉吉東	42	29	山陽女子		60	明誠	46	42	岩国商業	19	38
府中	38	24	青谷	41	35	就敷工業	54	60	平田	33	33	柳井	31	35
鈴峯女子		21	倉吉西	13	35	倉敷光学	31	7	出雲	30	24	香西川		26
翔園	10	20	米子西	33	3	金光	5	27	松江工業	25		早稲	20	19
大福山誠之館	7	16	八頭東	17	28	玉野光南	25	19	松江北	21	13	下関工業	19	10
広島女学院		16	鳥取東	26	23	岡山商業	9	21	出雲商業	9	20	岩国工業	18	17
広島皆実	3	15	由良育英	22	19	岡山工業	17		津和野	6	15	慶進		18
基町	13	3	鳥取西	16	14	明誠学院	5	15	矢野上	10	14	小野田工業	17	
松永	13	13	鳥取工業	16		水島工業	14		出雲北	13		防府工業	10	15
武田	12	1	米子工業高専	15	2	興譲館	13	6	浜田商業		12	宇部工業	15	
山陽	12		倉吉産業		14	津山商業	2	13	浜田	4	12	多々良工業園	14	
広島陵	12		境港工業	11		岡商	5	12	松江農	11	1	徳萩工業高専	13	2
官島工業	12		米子北	9	4	野商	3	10	出雲林	9	10	山口県鴻	6	10
広島城北	12		倉吉工業	9		倉敷商	3	10	松徳学	9	8	豊浦	10	
広島商船高専	10	8	倉吉北	9	9	西大寺	10	1	開星	9	9	野田学	9	
廿日	9	2	米子南	8	6	岡山商大附属	1	10	松江西	6	8	長徳山口	3	8
因修	9	9	米子松	7	5	勝倉敷青	1	9	益田工	8	7	徳山山口	7	5
進島工	8		境	5	7	岡山操	4	9	益田東	7	1	宇部商	7	2
三徳女		7	根雨	4	1	玉野山	6	7	益田産	5	2	柳井学	1	7
五日	2	6	鳥取商業	1	4	岡山南	6	7	立正大	1	5	岩国工	7	
安芸府	5	2	鳥取育英	3	1	岡山芳	6	7	横田	1	5	西丘	6	1
賀茂	2	5	境水	2		岡山梁	3	6	江津工	5		桜ヶ	6	1
忠徳	4	5	倉吉総合産業	2		岡山天	4	5	情報工	4	3	小野田	6	1
盈進	4	4	智頭農林	1		倉敷城	4	5	出雲農	4		厚野	1	6
安西	4	4				東岡山	5		出雲	1		岩国	6	6
広島国際学院	4	4				蒜児山	4	5	江津	1		誠光	5	
広島学院	3	3				矢邑掛	3	4	濱田水	1		徳山商工	4	4
瀬戸内	3	3				津山	1	4				光塩学	4	3
呉宮	3	3				備山南	4	4				下関商業	4	1
可府	1	3				津山工業	4	4				宇部高専	4	4
吉田	1	3				岡山学芸	4	4				南陽工業	4	4
比治山女	3	3	因島北	1		玉島島	3	3				防府商	3	1
呉商	3	3	広島大学附属	1		岡山大安	3	3				大津工業	1	3
安田女子	3	3	県立広島	1		岡山朝日	1	3				安下	3	3
広島市	3	3	安舟芸	1		玉島商業	1	3				松工	3	3
安古	2	1	沼田	1		笠岡工業	3	3				日置農	3	3
庄原	2	1	広島南特別支援	1		津山工業高専	3	3				下関第一	2	2
尾道	1	2	呉青	1		矢掛商業	2	1				下関	1	2
広島観	2	2	福山葦	1		笠岡商	2	2				久柳	2	2
土島なぎ	2	2	福山華	1		備前東	1	2				柳井工	2	2
如館	2	2	戸手商業	1		津山東	1	2				下関中央	2	2
熊野	2	2	清水ヶ	1		岡山一	1	1				山口中央	2	2
油木	2	2	市立	1		新弓	1	1				宇部	2	2
沼南	1	1	北陽	1		矢掛商	2	1				佐南	2	2
広島泰	1	1	N D 清	1		笠岡東	1	1				新萩	1	1
日彰	1	1	西条農	1		倉敷古	1	1				美萩	1	1
尾道北	1	1	大崎	1		倉敷中	1	1				美萩	1	1
広島市工	1	1	三竹	1		福林	1	1				美萩	1	1
			音原	1		井野	1	1				田布	1	1
			安佐	1		琴浦	1	1				大津	1	1
						金	1	1				田下	1	1

付表2 中国地区高専大会卓球競技の過去の栄光の記録 (第1回【1965年度】～第53回【2017年度】)

開催年度	全国		中国地区		男子団体			女子団体			男子		女子						
	大会回	卓球回	回	開催校 開催地	優勝	2位	3位	優勝	2位	3位	シングルス	ダブルス	シングルス	ダブルス					
S40	1965	—	—	第1回		宇部													
S41	1966	第1回	—	第2回		宇部													
S42	1967	第2回	第1回	第3回		松江													
S43	1968	第3回	第2回	第4回		宇部													
S44	1969	第4回	第3回	第5回		宇部													
S45	1970	第5回	第4回	第6回		松江													
S46	1971	第6回	第5回	第7回		米子													
S47	1972	第7回	第6回	第8回		米子													
S48	1973	第8回	第7回	第9回		米子													
S49	1974	第9回	第8回	第10回		米子													
S50	1975	第10回	第9回	第11回		米子													
S51	1976	第11回	第10回	第12回		米子													
S52	1977	第12回	第11回	第13回		宇部													
S53	1978	第13回	第12回	第14回		宇部													
S54	1979	第14回	第13回	第15回		宇部													
S55	1980	第15回	第14回	第16回		宇部													
S56	1981	第16回	第15回	第17回		宇部													
S57	1982	第17回	第16回	第18回		宇部													
S58	1983	第18回	第17回	第19回		宇部													
S59	1984	第19回	第18回	第20回		宇部	・広島												
S60	1985	第20回	第19回	第21回		宇部													
S61	1986	第21回	第20回	第22回		宇部													
S62	1987	第22回	第21回	第23回		宇部													
S63	1988	第23回	第22回	第24回		宇部													
S64 HI	1989	第24回	第23回	第25回		徳山							井上 明子	広島					
H2	1990	第25回	第24回	第26回		徳山													
H3	1991	第26回	第25回	第27回		宇部													
H4	1992	第27回	第26回	第28回		宇部													
H5	1993	第28回	第27回	第29回		徳山					水沼 太郎 弘重 治	徳山	安本 香織	広島					
H6	1994	第29回	第28回	第30回		徳山	・広島						我妻 法見	徳山					
H7	1995	第30回	第29回	第31回		徳山									安本 香織 大頭 直子				
H8	1996	第31回	第30回	第32回		徳山	・広島								徳山 宮本 めぐ美 堀町 智子				
H9	1997	第32回	第31回	第33回		徳山													
H10	1998	第33回	第32回	第34回		徳山													
H11	1999	第34回	第33回	第35回		徳山					石丸 将大	徳山	石丸 将大 田中 博康	徳山	宮本 めぐ美 堀町 智子				
H12	2000	第35回	第34回	第36回		宇部	・広島				田中 博康	徳山	田中 博康 沖中 信幸	徳山	宮本 めぐ美 堀町 智子				
H13	2001	第36回	第35回	第37回		宇部													
H14	2002	第37回	第36回	第38回		宇部	・広島								宮根 明日香 岩本 尚子				
H15	2003	第38回	第37回	第39回		広島					光本 康広	広島			切戸 佐和子 瀧口 綾子				
H16	2004	第39回	第38回	第40回		広島					岡本 勇輝	徳山	岡本 勇輝 末弘 真也	徳山	瀧口 綾子 安本 轟絵 瀧口 綾子				
H17	2005	第40回	第39回	第41回		徳山					末弘 真也	徳山			山本 早記 河岡 聖香				
H18	2006	第41回	第40回	第42回	宇部	宇部高専	徳山				末弘 真也 米元 天馬	徳山			山本 早記 河岡 聖香				
H19	2007	第42回	第41回	第43回	大島	大島高専	徳山	米子	宇部・松江			黒見 晃平	米子	河野 美雅 大畑 隼輔	米子	山本 早記	広島	西林 真也子 松永 明子	
H20	2008	第43回	第42回	第44回	津山	美作市	徳山	米子	津山・宇部			塚金 靖	徳山	河野 美雅 大畑 隼輔	米子	西林 真也子	徳山	西林 真也子 松永 明子	
H21	2009	第44回	第43回	第45回	徳山	周南市	米子	広島	徳山・松江			黒見 晃平	米子	河野 美雅 大畑 隼輔	米子	西林 真也子	徳山	西林 真也子 松永 明子	
H22	2010	第45回	第44回	第46回	米子	米子市	徳山	広島	宇部・米子			有津 和秀	広島	米元 天馬 塚金 靖	徳山	中西 美絵	広島	大政 あいみ 中西 美絵	
H23	2011	第46回	第45回	第47回	呉	呉市	広島	米子	宇部・徳山			松浦 虎三郎	広島	有津 和秀 松浦 虎三郎	広島	大畑 ひかり	米子	大政 あいみ 中西 美絵	
H24	2012	第47回	第46回	第48回	大島	柳井市	広島	米子	宇部・徳山			松浦 虎三郎	広島	有津 和秀 松浦 虎三郎	広島	大畑 ひかり	米子	大畑 ひかり 但井 友美	
H25	2013	第48回	第47回	第49回	松江	安来市	米子	広島	宇部・徳山			戸田 泰之	広島	戸田 泰之 増井 明晃	広島	藤井 未来	広島	大畑 ひかり 但井 友美	
H26	2014	第49回	第48回	第50回	津山	美作市	広島	米子	徳山・松江	広島		有津 悠貴	広島	有津 悠貴 田瀬 友也	広島	藤井 未来	広島	大畑 ひかり 但井 友美	
H27	2015	第50回	第49回	第51回	徳山	周南市	広島	徳山	津山・米子	広島		渡辺 大智	広島	渡辺 大智 中村 幹亮	広島	藤井 未来	広島	中村 幹亮 樽山 日和	
H28	2016	第51回	第50回	第52回	広島	尾道市	広島	徳山	宇部・津山	広島	米子	徳山・宇部	山根 克純	徳山	水田 灯哉 石原 幹朗	津山	藤井 未来	広島	岩崎 彰彦 宮本 明佳
H29	2017	第52回	第51回	第53回	米子	安来市	広島	徳山	米子・宇部	広島	米子	徳山・宇部	飯田 慎吾	広島	田中 勇真 藤村 拓弥	徳山	藤井 未来	広島	藤井 未来 村上 幸子

付表3 全国高専大会卓球競技の過去の栄光の記録 (第1回【1967年度】～第51回【2017年度】)

開催年度	地区 回	全国			男子団体			女子地区対抗			男子		女子			
		大会回	卓球回	開催地	優勝	2位	3位	優勝	2位	3位	シングルス	ダブルス	シングルス	ダブルス		
S40	1965	第1回	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S41	1966	第2回	第1回	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S42	1967	第3回	第2回	第1回	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S43	1968	第4回	第3回	第2回	福島	高松	大分	-	-	-	長野 良基	宇部 空土片山 啓次真司	和歌山 城西 修正行	-	-	-
S44	1969	第5回	第4回	第3回	神戸	大分	福島	-	-	-	村上 真道	新居浜 城西 渡辺	徳島 徳島 藤野隆郎	-	-	-
S45	1970	第6回	第5回	第4回	福島	小山	松江	-	-	-	柴田 広道	福島 前野 泰次	徳島 徳島 藤野隆郎	-	-	-
S46	1971	第7回	第6回	第5回	大分	福島	新居浜	-	-	-	柴田 広道	福島 柴田 今井	福島 徳島 藤野隆郎	-	-	-
S47	1972	第8回	第7回	第6回	福島	神戸	米子	-	-	-	渡部 浩二	新居浜 渡部 玉井	新潟 新潟 久剛	-	-	-
S48	1973	第9回	第8回	第7回	宇部	米子	宮城	-	-	-	前泉 宏	神戸 久保 上村	和歌山 吉一 治	-	-	-
S49	1974	第10回	第9回	第8回	米子	和歌山	神戸	-	-	-	小豆畑 健之	福島 久保 上村	和歌山 吉一 治	-	-	-
S50	1975	第11回	第10回	第9回	米子	富山	青英	-	-	-	金子 哲也	石川 我孫子 佐藤	秀行 利明 三郎	宮城 米子	-	-
S51	1976	第12回	第11回	第10回	米子	阿南	郡城	-	-	-	梅林 伸一	米子 遠藤 山本	米子 三郎 紀光	-	-	-
S52	1977	第13回	第12回	第11回	宇部	福島	沼津	-	-	-	梅林 伸一	米子	-	-	-	-
S53	1978	第14回	第13回	第12回	宇部	金沢	豊田	-	-	-	古江 裕二	郡城 富田 有田	宇部 信明 一敬	-	-	-
S54	1979	第15回	第14回	第13回	宇部	秋田	金沢	-	-	-	中村 宏昭	金沢 竹山 古江	郡城 徳島 裕二	-	-	-
S55	1980	第16回	第15回	第14回	宇部	有明	小山	-	-	-	松岡 俊志	宇部 松岡 俊志	宇部 勝巳 豊彦	-	-	-
S56	1981	第17回	第16回	第15回	宇部	有明	小山	-	-	-	松岡 俊志	宇部 松岡 俊志	宇部 勝巳 豊彦	-	-	-
S57	1982	第18回	第17回	第16回	宇部	神戸	小山	-	-	-	渡邊 聡	青英 松井 石橋	神戸 司 善徳	-	-	-
S58	1983	第19回	第18回	第17回	宇部	長岡	石川	-	-	-	松井 幸治	宇部 松井 幸治	宇部 幸治 恵介	-	-	-
S59	1984	第20回	第19回	第18回	宇部	阿南	桐蔭学園	-	-	-	窪田 準一	桐蔭 村田 権	阿南 宏樹 容厚	-	-	-
S60	1985	第21回	第20回	第19回	宇部	青英	新居浜	-	-	-	窪田 準一	桐蔭 村田 権	阿南 宏樹 容厚	-	-	-
S61	1986	第22回	第21回	第20回	宇部	北九州	青英	-	-	-	志賀 勝宏	豊田 咲花 熊尾	宇部 浮影 政弘	-	-	-
S62	1987	第23回	第22回	第21回	宇部	金沢	秋田	-	-	-	塩崎 淳一	宇部 塩崎 淳一	宇部 淳一 淳男	-	-	-
S63	1988	第24回	第23回	第22回	金沢	北九州	宇部	-	-	-	山本 信士	北九州 南出 濱田	金沢 藤幸 勝	-	-	-
S64 H1	1989	第25回	第24回	第23回	北九州	徳山	高知	-	-	-	内谷 紀彦	北九州 神塚 内谷	北九州 一部 紀彦	高橋 由香	旭川	-
H2	1990	第26回	第25回	第24回	徳山	北九州	豊田	-	-	-	内谷 紀彦	北九州 橋本 西園	高知 健志 清二	徳島 藤原 三紀子	詫間	-
H3	1991	第27回	第26回	第25回	北九州	神戸	福島	-	-	-	元矢 伸二	福井 兼俊 河野	宇部 仁志 達哉	大分 安達 万里子	-	-
H4	1992	第28回	第27回	第26回	宇部	小山	木更津	-	-	-	米原 誠也	弓削 米原 廣田	弓削 誠也 和成	八戸 澤田 奈津子	-	-
H5	1993	第29回	第28回	第27回	金沢	徳山	弓削	-	-	-	村田 隆博	金沢 水沼 弘重	徳山 太郎 治	八戸 澤田 奈津子	-	-
H6	1994	第30回	第29回	第28回	徳山	弓削	金沢	-	-	-	竹林 工	一関 佐伯 山形	弓削 高志 太郎	徳山 我妻 法晃	-	-
H7	1995	第31回	第30回	第29回	徳山	一関	小山 福井	-	-	-	竹林 工	一関 竹林 大山	一関 工 洋平	八戸 澤田 奈津子	八戸 宮本 めぐ美	青英
H8	1996	第32回	第31回	第30回	徳山	一関	青英 福井	-	-	-	岩田 誠	宇部 岩田 誠	宇部 誠 政二	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H9	1997	第33回	第32回	第31回	北九州	一関	徳山 宇部	-	-	-	岩田 誠	宇部 岩田 誠	宇部 誠 政二	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H10	1998	第34回	第33回	第32回	徳山	福井	一関 青英	-	-	-	石丸 将大	徳山 石丸 将大	徳山 博康 徳幸	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H11	1999	第35回	第34回	第33回	新居浜	徳山	弓削 雲山	-	-	-	田中 博康	徳山 田中 博康	徳山 博康 徳幸	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H12	2000	第36回	第35回	第34回	福島	新居浜	吉小牧 明石	-	-	-	河野 純之助	米子 國本 古川	宇部 高浩 祐介	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H13	2001	第37回	第36回	第35回	宇部	徳山	福島 米子	-	-	-	高橋 正年	福島 中川 松本	宇部 理志 剛	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H14	2002	第38回	第37回	第36回	宇部	新居浜	福井 福島	-	-	-	菅原 義彦	一関 松本 中務	宇部 剛 智典	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H15	2003	第39回	第38回	第37回	福島	鶴岡	有明 福井	-	-	-	高橋 正年	福島 高橋 長谷川	福島 正年 卓	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H16	2004	第40回	第39回	第38回	福島	新居浜	広島 吉小牧	-	-	-	滝浦 直人	一関 高橋 長谷川	福島 正年 卓	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H17	2005	第41回	第40回	第39回	一関	徳山	東京 新居浜	-	-	-	末広 真也	徳山 滝浦 直人	一関 一樹	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H18	2006	第42回	第41回	第40回	奈良	奈良市	一関 吉小牧	-	-	-	滝浦 一樹	一関 末広 米元	徳山 真也 天馬	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H19	2007	第43回	第42回	第41回	長岡電気	丸亀市	一関 吉小牧	-	-	-	滝浦 直人	一関 滝浦 直人	一関 直人 一樹	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H20	2008	第44回	第43回	第42回	釧路	釧路市	一関 吉小牧	-	-	-	滝浦 直人	一関 滝浦 直人	一関 直人 一樹	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H21	2009	第45回	第44回	第43回	大分	別府市	米子 吉小牧	-	-	-	目黒 史也	吉小牧 河野 大畑	米子 英雅 穂穂	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H22	2010	第46回	第45回	第44回	福井	福井市	徳山 高知	-	-	-	坪金 靖	徳山 有津 松浦	広島 和秀 虎三郎	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H23	2011	第47回	第46回	第45回	サングレ	東京都	広島	-	-	-	松浦 虎三郎	広島 有津 松浦	広島 和秀 虎三郎	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H24	2012	第48回	第47回	第46回	津山	岡山市	広島	-	-	-	有津 和秀	広島 有津 松浦	広島 和秀 虎三郎	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H25	2013	第49回	第48回	第47回	一関	一関市	広島	-	-	-	増田 雄一	茨城 戸田 増井	広島 泰之 明児	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H26	2014	第50回	第49回	第48回	弓削	松山市	福島	-	-	-	安齋 正樹	福島 延命 三津	石川 慧悟 友雄	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H27	2015	第51回	第50回	第49回	沖縄	那覇市	福島	-	-	-	渡辺 大智	広島 安齋 矢内	福島 正樹 智大	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H28	2016	第52回	第51回	第50回	豊田	豊田市	広島	-	-	-	三谷 悠大	高知 西川 三谷	高知 明日 三谷	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山
H29	2017	第53回	第52回	第51回	茨城	ひたちなか	高知	-	-	-	藤田 慎吾	広島 川上 川崎	徳島 直海 敬心	八戸 宮本 めぐ美	徳山 岩本 めぐ美	徳山